早蘇中学校改修工事（屋外附帯）

建築工事（意匠）			電気設備工事		
図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
Ａ－０１	特記仕様書（１）	ＦＲＥＥ	Ｅ－０１	特記仕様書（１）	ＦＲＥＥ
Ａ－０２	特記仕様書（２）	ＦＲＥＥ	Ｅ－０２	特記仕様書（２）	ＦＲＥＥ
Ａ－０３	特記仕様書（３）	ＦＲＥＥ	Ｅ－０３	配置図、電灯設備平面図、照明器具リスト	１：２００ １：４００
Ａ－０４	現況配置図、仮設計画図、付近見取図	１：４００			
Ａ－０５	完成配置図	１：４００			
Ａ－０６	部分詳細図（現況）	１：３０			
Ａ－０７	部分詳細図（完成）－１	１：３０			
Ａ－０８	部分詳細図（完成）－２	１：３０			
Ａ－０９	部分詳細図（完成）－３	１：３０			
Ａ－１０	グランド詳細図（１）	１：２５０			
Ａ－１１	グランド詳細図（２）	図示			
Ａ－１２	グランド詳細図（３）	図示			
Ａ－１３	グランド詳細図（４）	１：１００			

建築工事特記仕様書

Ⅰ

工事概要

1. 工事年度及び番号　令和　7　年度　第　号
2. 工事名　早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）
3. 工事場所　日高郡　日高川町　大字松尾地内
4. 工事建物　構造　階数　延面積　㎡　建築面積　㎡

5. 工事内容　共通仮設工事　屋外附帯工事　電気設備工事　グランド整備工事　既存撤去工事

Ⅱ

建築工事仕様

1. 図面及び特記仕様に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(最新版)及び
同監修 公共建築改修工事標準仕様書（最新版）（以下「標準仕様書」という。）による。
2. 特記事項は○印のついたものを適用し、○印のない場合は※印のあるものを適用する。
・印と※印の両方に○がついている場合は共に適用する。"m
3. 取消線で打ち消した部分については適用しない。
4. 項目欄（　）内の数示番号は標準仕様書の当該項目を示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項		1節　一般事項
	① 適用範囲（1.1.1）	※投計図書の優先順位は、質問回答書、現場説明書、特記仕様書、図面、標準仕様書の順とする。
	② 官公署への他への届出手続等（1.1.3）	※工事の着手、施工、完成に当たり、関係官公署への他の関係機関への必要な届出手続等は遅延なく行い、その費用は全て受注者の負担とする。
	③ 工事実績情報の登録（1.1.4）	※登録する（ただし、工事請負額が500万円未満の工事については不要）
	④ 書類の整式等（1.1.5）	施工体制台帳及び施工体系図 ※作成する（ただし、下請契約の請負代金の総額が3,000万円未満（建築一式工事においては4,500万円未満）の工事については不要）
	⑤ 別契約の施工上密接に関連する工事（1.1.7）	※別契約の施工上密接に関連する工事については、監督員の調整に協力し、当該工事関係者とともに、工事全体の円滑な施工に努める。"n 設置工事との施工区分 ・ＲＣ造等の図示した貫通孔の補強及び頻口部の補強（設備用のスリーブ及び箱入れは除く） ※本工事　・電気設備工事　・機械設備工事　・その他（　　） ・鉄骨部分の貫通スリーブの設置及び補強 ※本工事　・電気設備工事　・機械設備工事　・その他（　　） ・照明器具等の、天井の仕上げ材、下地材の切り込み及び下地材の補強 ・本工事　※電気設備工事　※機械設備工事　・その他（　　） ・防火戸の自動閉鎖装置取付け金具の切り込み及び補強 ※本工事　・電気設備工事　・機械設備工事　・その他（　　） ・駆動装置が電動による建具類の２次配線及び操作スイッチ ※本工事　・電気設備工事　・機械設備工事　・その他（　　） ・屋上に設置する場合の設備機器の基礎（架台、アンカーボルト除外） ※本工事　・電気設備工事　・機械設備工事　・その他（　　） ・その他（　　） ※本工事　・電気設備工事　・機械設備工事　・その他（　　）
	⑥ 施工計画書（1.2.2）	2節　工事関係図書 ※各工事毎に提出する
	⑦ 工事の記録（1.2.4）	監督員の指示により、工事着手前、施工中、完成時の工事写真を提出する （参考：営繕工事写真撮影要領（平成２４年版）・同解説　工事写真の撮り方　建築編）
	⑧ 電気保安技術者（1.3.3）	3節　工事現場管理 電気保安技術者の設置 ・設置する　・設置しない
	⑨ 施工条件（1.3.5）	施工条件　※別紙「現場説明表」のほか、設計図書による
	⑩ 発生材の処理等（1.3.8）	発生材の処理は次による ※別紙「工事特記事項（共通編）」による 発注者に引渡しを希望するもの　※図示による 特別管理産業廃棄物の有無　・有り　・無し 処理方法 ・薬液（処理方法：　　） ・廃ＰＣＢ等（処理方法：　　） ・廃石綿等（処理方法：　　） ・その他（　　、処理方法：　　） 発生材のうち、現場において再利用を図るもの及び再資源化を図るもの　※図示による ※発注者は、再生資源利用【促進】計画書（実施書）を作成するものとする。なお、再生資源利用【促進】計画書は、施工計画書に含めて提出するものとする。 ※作成した再生資源利用【促進】計画書（実施書）は、自社においても保管するものとする。 「建設リサイクルデータ統合システム－ＣＲＥＤＡＳ－入力システム」は国土交通省のホームページよりダウンロードできます。
	⑪ 交通安全管理（1.3.9）	交通誘導員の配置 ・配置する　・配置しない
	⑫ 現場代理人	※現場代理人は、工事現場に常駐すること。 ただし、工事現場において作業等が行われていない期間で発注者との連絡体制が確保されると監督員が認めた場合は常駐を要しない。
	⑬ 県産品等の優先使用	4節　材料 ※一般資材において、規格・品質が条件を満足するものについては、県産品、グリーン購入推進方針における品目の優先使用に努めるものとする。 なお、木工事の木材については、和歌山県木材利用方針に基づき、原則紀州材を使用すること。
	⑭ 県内調達に関する事項	※可能な限り県内調達とする
	⑮ 技能士（1.5.2）	5節　施工 一級技能士又は単一等級の資格を有する者（職業能力開発促進法）又はそれらと同等以上の技能士の適用は次の工事とする。"m 鉄筋工事　・鉄筋施工（鉄筋加工組立て作業） コンクリート工事　・型枠施工　・コンクリート圧送施工 鉄骨工事　・とび ブロック・ＡＬＣパネル工事　・ブロック積工　・ＡＬＣパネル施工 防水工事　・アスファルト防水　・合成ゴム系シート防水　・塩化ビニル系シート防水 ・アクリルゴム系塗膜防水　・シーリング防水　・ウレタンゴム系塗膜防水 石工事　・石材施工（石張り） タイル工事　・タイル張り 木工事　・建築大工 屋根及びとい工事　・建築板金（内外装板金）　・スレート施工 金属工事　・内装仕上げ施工（鋼製下地工事） 左官工事　・左官 建具工事　・建具製作　・サッシ施工 カーテンウォール工事　・カーテンウォール施工（ＰＣ）　・サッシ施工　・ガラス施工 塗装工事　・塗装（・建築塗装　・木工塗装　・金属塗装） 内装工事　・プラスチック系床仕上げ　・カーペット系床仕上げ ・ボード仕上げ　・骨組作　・張装（・壁装作業　・張具作業） 植栽工事　・造園
	⑯ 施工の検査等（1.5.5）	見本施工の実施 ・実施する　・実施しない
	17 化学物質の濃度測定（1.5.9）	建築物の室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定 ※実施する（・事前事後共　・事後のみ）　・実施しない 実施する場合の測定対象の化学物質 ※ホルムアルデヒド　※トルエン　※キシレン ※パラジクロロベンゼン　※エチルベンゼン　※スチレン 測定方法に関する基準 ・「官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」（国営建第１号平成15年４月１日）による ・「学校における室内空気汚染対策について」（H15文学健第119号平成15年７月４日）による ・その他（　　） 測定対象室及び測定箇所数　※図示による ※測定対象化学物質が濃度指針値を超えた濃度で検出された場合は、引渡しは受けない。
	18 技術検査（1.6.2）	6節　工事検査及び技術検査 ・中間技術検査（実施回数：　　回、実施段階：　　）
	⑲ 完成時の提出図書等（1.7.1）（1.7.2）（1.7.3）	7節　完成図等 完成図　※提出する　・提出しない 複写図の作成方法及び部数 ※製本（　２　部） ※四つ折Ａ４（付近見取図、配置図、平面図、各部詳細図）（　　部） ＣＡＤデータの提出　※要　・不要 保全に関する資料　※提出する（　　部）　・提出しない ※現工写真（データ及び製本各３部）を提出する。２０カット程度 その他 火災保険への加入　※象　・不象 保険期間 ・着工日から完成工期まで ・竣工日から完成工期＋１ヶ月まで（引渡し後は、被保険者を施主とする） ・その他（　　）
	20 火災保険	保険金額　※建設工事請負契約額以上　・その他（　　）
	㉑ 建設業退職金共済制度	※建設労働者の勤労条件改善のため「建設業退職金共済組合」等に加入すること。 ※共済証紙は金融機関で退職金共済契約者証を提出し、相当額の証紙を購入して、その掛金収納室の一部を契約時に提出すること。 ※建設業退職金共済制度に関する報示については、別紙「工事特記事項（共通編）」による
	㉒ 部分引渡し	部分引渡し　・有り　・無し
	㉓ 部分使用	部分使用　・有り　・無し
	㉔ ホルムアルデヒド放散量	ＪＩＳ及び標準仕様書等により放散量の区分規定がある材料についてはＦ☆☆☆☆を使用すること。
	25 工事場所の風速等	建築基準法により定められた　風速（Ｖｏ＝３４） 地表面粗度区分（・Ⅱ　・Ⅲ） 上記条件により、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書の品質計画で定めること。
	㉖ 低入札工事に係る公共工事の品質確保について	※試験頻度を２倍とするのは、標準仕様書における品質管理規準に規定された施工に関する試験とする
	㉗ その他	※監督員の指示による
② 仮設工事	① 足場その他（2.2.4）	2節　縄張り、遣方、足場その他 ※足場を設ける場合は、標準仕様書２．２．４（ｂ）によるほか、足場の組立て、解体又は変更の作業においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。
	② 監督員事務所、受注者事務所等（2.3.1）	3節　仮設物 監督員事務所の設置　・設置する　・設置しない 監督員事務所の規模　※（　　㎡程度） 監督員事務所の仕上げの程度 床　※合板張り又はビニル床シート張り　・その他（　　） 内壁、天井　※各板又はせっこうボード張りの上、各成保護エマルジョンペイント塗り ・その他（　　） 屋根　※長尺金属板葺　・折板葺　・その他（　　） 設置する備品等の種類及び数量 ※机（　　台）、いす（　　脚）、ロッカー（　　台）、冷蔵庫、インターネット環境、空調設備 受注者事務所　・設置する（２０　㎡程度）　・設置しない 便所　・設置する（　　）　・設置しない
	② 工事用水	その他 構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　・利用できない
	③ 工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　・利用できない
③ 土工事	① 埋戻し及び盛土（2.2.3）	2節　根切り及び埋戻し 埋戻し及び盛土の種別 ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
	② 建設発生土の処理（2.2.5）	※搬外搬出（「建設発生土の処分場指定に関する条例（和歌山県県土整備部）」に基づく指定処分場） ただし、契約後工事関係用語整の結果、他の工事関係へ変更し運搬する場合には契約変更の対象とする。 ・構外搬出（他工事に流用） ・構内に敷き均し ・構内にたい積 その他 「和歌山県建設発生土管理基準（和歌山県県土整備部）」に基づく土壌検査 ・必要（　　カ所） ・不要
	3 埋立て等の不適正処理防止に係る土壌検査	
④ 地業工事	1 試験杭（4.2.2）	構造特記仕様書に依る 2節　試験及び報告 試験杭の位置、本数及び寸法　※図示による
	2 杭の載荷試験（4.2.3）	杭の載荷試験　・行う　・行わない ・台座載荷試験　・水平載荷試験 試験杭の位置、本数、載荷荷重等　※図示による 試験の方法、報告書の記載事項等 ※国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「敷地調査共通仕様書」による
	3 地盤の載荷試験（4.2.4）	平板載荷試験　・行う　・行わない 試験位置及び載荷荷重　※図示による 試験の方法、報告書の記載事項等 ※国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「敷地調査共通仕様書」による
	4 適用範囲（4.3.1）	3節　既製コンクリート杭地業 工法の選用（4.3.3～4.3.5）　・打込み工法　・セメントミルク工法　・特定埋込杭工法
	5 材料（4.3.2）	種類、性能及び曲げ強度等による区分等　※図示による 杭の寸法、継手の開所数、杭先端部の形状等　※図示による
	6 打込み工法（4.3.3）	杭の設計支持力　※図示による 施工法の種別　※図示による フレボーリングと打設を併用する場合の掘削深さ及び径　※図示による 試験杭における打込杭の推定支持力の算定方法　※図示による 杭の水平方向の位置ずれの精度　※図示による
	7 セメントミルク工法（4.3.4）	支持地盤の位置及び種類　※図示による アースオーガーの支持地盤への掘削深さ及び杭の支持地盤への根入れ深さ　※図示による 杭の水平方向の位置ずれの精度　※図示による
	8 特定埋込杭工法（4.3.5）	杭の水平方向の位置ずれの精度　※図示による 支持地盤の位置及び種類　※図示による
	9 継手（4.3.6）	継手の工法　※アーク溶接　・無溶接継手 無溶接継手の場合の工法等　※図示による
	10 杭頭の処理（4.3.7）	杭頭の処理　※図示による
⑤ 鉄筋工事	11 材料（4.4.2）	4節　鋼材地業 種類の記号　・鋼管ぐい（・SKK400　・SKK490）　・Ｈ形鋼ぐい（・SHK400　・SHK490M） 杭の寸法　※図示による 先端部形状及び補強　※図示による
	12 継手（4.4.5）	現場継手の工法　※図示による
	13 適用範囲（4.5.1）	5節　場所打ちコンクリート杭地業 工法の選用　※図示による
	14 材料その他（4.5.3）	鉄筋 帯筋　※図示による 鉄筋かごの補強　・図示による 鉄筋の最小かぶり厚さ　※図示による コンクリート セメントの種類　・図示による 設計基準強度　※図示による コンクリートの種別　・Ａ種　・Ｂ種 構造体強度補正値（Ｓ）の値　※３Ｎ/mm2　・その他（　　N/mm2）
	15 アースドリル工法、リバースエ法及びオールケーシング工法（4.5.4）	支持地盤の位置及び種類　※図示による 孔壁の超音波測定器の確認　・行う　・行わない 杭の水平方向の位置ずれの精度　※図示による
	16 場所打ち鉄筋コンクリート杭工法及び拡径工法（4.5.5）	孔壁の超音波測定器の確認　・行う　・行わない 支持地盤の位置及び種類　※図示による
	⑰ 砂利及び砂地業（4.6.3）	6節　砂利、砂及び砕コンクリート地業等 砂利及び砂地業の厚さ　※６０ｍｍ　・その他（　　mm） ・図示による
	⑱ 捨コンクリート地業（4.6.4）	捨コンクリートの厚さ　※５０ｍｍ　・その他（　　mm）
	19 床下防湿層（4.6.5）	防湿層の適用及び範囲　※図示による
⑥ コンクリート工事	1 鉄筋（5.2.1）	構造特記仕様書に依る 2節　材料 鉄筋の種類の記号　※図示による
	2 溶接金網（5.2.2）	溶接金網の網目の形状、寸法及び鉄線の径　※図示による
	3 継手及び定着（5.3.4）	3節　加工及び組立 鉄筋の継手　※重ね継手　・ガス圧接継手　・機械式継手　・溶接継手 鉄筋の継手位置　※図示による 柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ　※図示による 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ　・図示による 鉄筋の定着の長さ 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋　※図示による その他の鉄筋　※図示による
	4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（5.3.5）	軽量コンクリートを使用する場合における土に接する部分のかぶり厚さ　※図示による 塩害を受けるおそれがある部等、耐久性上不利な箇所におけるかぶり厚さ　※図示による 継機式継手及び溶接継手の鉄筋用意のあき　※図示による
	5 各部配筋（5.3.7）	各部の配筋　※図示による
	6 圧接完了後の試験（5.4.9）	4節　ガス圧接 抜取試験の方法　※超音波探傷試験　・引張試験
	7 機械式継手（5.5.2）	5節　機械式継手及び溶接継手 機械式継手の種類等　※図示による 機械式継手の工法、品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　・図示による
	8 溶接継手（5.5.3）	溶接継手の工法、品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　・図示による
	1 コンクリートの種類（6.2.1）	構造特記仕様書に依る 2節　コンクリートの種類及び品質 コンクリートの気乾単位容積質量による種類　※図示による コンクリートの使用材料、施工条件、要求性能等による種類、適用範囲及び施工時期　※図示による コンクリートの強別　※１強　・３強 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリート　※図示による
	2 コンクリートの強度（6.2.2）	普通コンクリートの設計基準強度（N/mm2）　※図示による 軽量コンクリートの設計基準強度（N/mm2）　※図示による
	3 ワーカビリティーおよびスランプ（6.2.4）	コンクリートのスランプ 基礎、基礎梁、土間スラブ　※１５ｃｍ　※１８ｃｍ　・その他（　　） 柱、梁、スラブ、壁　※１８ｃｍ　・その他（　　）
	5 構造体コンクリートの仕上り（6.2.5）	コンクリートの打放し仕上りの種別 ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
	6 コンクリートの材料（6.3.1）	3節　普通コンクリートの材料及び調合 セメントの種類　※普通ポルトランドセメント　・その他（　　） 特殊な細骨材の使用 ・フェロニッケルスラグ細骨材　・銅スラグ細骨材　・電気炉酸化スラグ細骨材　・再生骨材Ｈ アルカリシリカ反応性による区分　※Ａ　・Ｂ 混和材料　・図示による
	⑦ コンクリートの調合（6.3.2） 材料及び調合（6.12.2）	3節　普通コンクリートの材料及び調合 12節　暑中コンクリート 普通ポルトランドセメントを用いた普通コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度（Ｆｃ）に、下表の構造体強度補正値（Ｓ）を加えた値とする。 補正値 / 地域別：3N/mm2 / 6N/mm2 コンクリート打設日：3/6～7/10、9/3～11/17 / 11/18～3/5、7/11～9/2 伊都：3/27～10/28 / 10/29～3/26 高野山：2/20～6/30、9/15～12/6 / 12/7～2/19、7/1～9/14 花園・美里・滝水・美山：3/10～7/22、8/20～11/11 / 11/12～3/9、7/23～8/19 日高：2/17～7/8、9/12～12/4 / 12/5～2/16、7/9～9/11 龍神：3/12～8/3、8/8～11/11 / 11/12～3/11、8/4～8/7 田辺：2/5～7/3、9/15～12/18 / 12/19～2/4、7/4～9/14 中辺路・大塔・本宮・熊野川・北山：3/3～7/16、8/28～11/17 / 11/18～3/2、7/17～8/27 新宮：2/3～7/5、9/12～12/18 / 12/19～2/2、7/6～9/11 串本：1/24～7/8、9/13～1/2 / 1/3～1/23、7/9～9/12 古座川：3/1～7/16、8/24～11/18 / 11/19～2/29、7/17～8/23 ※普通ポルトランドセメントを用いた普通コンクリート以外の構造体強度補正値（Ｓ）については別途協議すること。
	⑧ レディーミクストコンクリート（6.4.1）（6.4.2）（6.4.3）	4節　レディーミクストコンクリートの発注、製造及び運搬 1　受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、JISマーク表示認定工場または、JISマーク表示認証工場（改正工業標準化法（平成１６年６月９日公布）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により認証を受けた工場）で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技士等）が常駐しており、全国生コンクリート品質管理監査会議の実定した全国統一品質管理監査基準に基づく監査に合格した工場から選定し、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するものを用いるものとする。（Ｉ級のレディーミクストコンクリートを使用する場合を除く。） 2　受注者は、上記によらない場合には、その理由を明記した「レディーミクストコンクリートに関する調査調書」を提出し、監督員の確認を得なければならない。また、公共建築工事標準仕様書等における品質管理基準に示されるコンクリートの施工に関する試験頻度と２倍にするものとする。（低入札工事における品質確保基準（低入札工事における品質管理基準 http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/081100/bid/teinyuu/index.html 参照） 3　受注者は、監査に合格した工場からレディーミクストコンクリートを調達した場合であっても、加水行為等により、品質管理が適切に行われなかったことが判明した場合、以降の調達については、品質管理を適切に実施されていることが確認されるまでの間、当該工場からは、行わないものとする。 4　レディーミクストコンクリートへの加水は、コンクリートの性能を著しく変化させるため、行ってはならない。 （コンクリート標準示方書【施工編】より一部要約）
	5 また、加水の基準が無い場合でも、製造工場から工事現場到着までの間に、アジテータ車のホッパ部分（車両後部上方にある、コンクリートの投入口）に付着したコンクリートを水洗いする行為は、洗浄水がドラム内に流れ込むため、加水行為と同様であり行ってはならない。やむを得ず洗浄する必要がある場合は、水を使用せずエアーやブラシ等で行うこと。 6　シュート等の洗浄に使用した洗浄水を受けた袋（洗い袋）を、アジテータ車のシュート部分等（種板のために設置された場所以外）に乗り下げたまま道路を走行することは、道路交通法（第６５条）に抵触するため行ってはならない。 7　洗い袋に入った洗浄水をアジテータ車のドラム内に戻す行為は、高所作業となり（高さ２メートル未満の箇所を除く）、労働安全衛生規則（第５１８条）に抵触するため行ってはならない。 ついては、洗浄水の処理は、現場にピット（槽）やペッセル（鋼製槽）等を設置した上で適正に処理を行うか、作業床（足場等）を設け、洗い袋に入った洗浄水をドラム内に戻すものとする。 ただし、やむを得ずこれらが設置出来ない場合で、安全帯を適切に使用し、洗浄水をドラム内に戻す場合は除く。 また、ドラム内に戻した洗浄水は、レディーミクストコンクリートと混ざることがないよう、製造工場等で排出し、適正に処理を行うこと。 8　アジテータ車に種板するコンクリートは、車両ごとに定められた、種板重量の制限を超えることのないよう、十分注意すること。
	⑨ 打継ぎ（6.6.3）	6節　コンクリートの工事現場内運搬並びに打込及び締固め 目地の寸法　※図示による
	10 一般事項（6.8.2）	9節　型枠 外壁に面するコンクリート打放し仕上げの打増し厚さ　※図示による ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法　※図示による
	⑪ 材料（6.8.3）	せき板の材料　・図示による せき板の厚さ　※１２ｍｍ　・その他（　　mm） MCR工法用シート　※図示による スリーブに用いる材種及び規格等　・図示による
	12 一般事項（6.10.1）	10節　軽量コンクリート 適用箇所及び実際上支は水に直接接する部分　※図示による 軽量コンクリートの種類　・Ⅰ種　・２種 所要気乾単位容積質量の値　※図示による
	13 一般事項（6.11.1）	11節　暑中コンクリート 暑中コンクリートの適用期間　※図示による
	14 一般事項（6.13.1）	13節　マスコンクリート 適用箇所　※図示による
	15 材料及び調合（6.13.2）	セメントの種類　※図示による 混和剤の種類　・図示による スランプ　※図示による
	16 一般事項（6.14.1）	14節　無筋コンクリート 設計基準強度　※１８N/mm2 スランプ　・１５ｃｍ　・１８ｃｍ 適用箇所　・図示による
⑦ 鉄骨工事	1 鉄骨製作工場（7.1.3）	構造特記仕様書に依る 1節　一般事項 鉄骨製作工場の加工能力等　※適用する（建築基準法による性能評価の大臣認定グレード同等以上） ・Ｓ　・Ｈ　・Ｍ　・Ｒ　・Ｊ 施工管理技術者　※適用する　・適用しない
	2 鋼材（7.2.1）	2節　材料 鋼材の材質、形状及び寸法　※図示による
	3 高力ボルト（7.2.2）	高力ボルトの適用 ・トルシア形高力ボルト　・ＪＩＳ形高力ボルト　・溶融亜鉛めっき高力ボルト 高力ボルトの径　※図示による
	4 普通ボルト（7.2.3）	ボルトの径　※図示による
	5 アンカーボルト（7.2.4）	構造用アンカーボルトの種類　※図示による 建方用アンカーボルトの種類　※図示による アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度　・図示による
	6 ターンバックル（7.2.6）	ターンバックルの種類及びねじの呼び等　・図示による
	7 デッキプレート（7.2.7）	デッキプレート版の材質、形状及び寸法 デッキプレート単独の構法に用いるデッキプレート　※図示による デッキプレートとコンクリートの合成スラブとする構法に用いるデッキプレート　※図示による
	8 レール（7.2.8）	天井クレーン走行用等に使用するレール及びその付属品の形状及び寸法等　※図示による
	9 柱底均しモルタル（7.2.9）	柱底均しモルタルに無収縮モルタルを使用する場合の材料、調合等　・図示による
	10 材料試験等（7.2.10）	板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 ・行う　・行わない
	11 工作図（7.3.2）	3節　工作一般 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による
	12 仮組（7.3.10）	仮組　・行う　・行わない
	13 摩擦面の性能及び処理（7.4.2）	4節　高力ボルト接合 すべり係数試験　・行う　・行わない すべり係数試験の方法及び試験片の摩擦面の状態　※図示による
	14 締付け（7.4.7）	JIS形高力ボルトの本締付けでナット回転法を用いる時、ボルトの長さが呼びの５倍を超える場合の回転量 ※図示による
	15 技能資格者（7.6.3）	6節　溶接接合 溶接技能者の技量付加試験　・行う　※行わない
	16 材料承諾（7.6.4）	開先の形状　※図示による
	17 溶接施工（7.6.7）	エンドタブの切放の有無及び適用箇所　※図示による スカラップの形状　※図示による
	18 溶接部の試験（7.6.11）	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　※行う　・行わない 平均出現品質限界（ＡＯＱＬ）　・２．５％　※４．０％ 検査水準　・第１水準　・第２水準　・第３水準　・第４水準　・第５水準　・第６水準
	19 デッキプレートの溶接（7.7.8）	7節　スタッド溶接及びデッキプレート溶接 デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法 ※図示による
	20 塗装の種別（7.8.3）	8節　錆止め塗装 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種別 ※Ａ種　・Ｂ種 耐火被覆材の接着する塗装面の錆止め処置の種別 ・Ａ種　・Ｂ種
	21 耐火被覆の種類及び性能（7.9.2）	9節　耐火被覆 耐火被覆の種類及び性能　※図示による
	22 アンカーボルト等の設置（7.10.3）	10節　工事現場施工 建方用アンカーボルト　・使用する　・使用しない 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 構造用アンカーボルト　・使用する　・使用しない 構造用アンカーボルトおよびアンカーフレームの形状及び寸法　※図示による 柱底均しモルタルの厚さ　※図示による 柱底均しモルタルの工法の種別　※Ａ種　・Ｂ種

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE	DRAWING. No. A/01
図面名	特記仕様書（１）	SCALE	FREE (A1) FREE (A3)

ARCHITECTURAL DESIGN FIRM
株式会社 岡本設計
一級建築士　岡本浩一
登録番号２３４４００

	23 施工（7.11.2）	11節 軽量形鋼構造 ボルトの接合方法 ※図示による
	24 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合（7.12.4）	12節 溶融亜鉛めっき工法 摩擦面の処理 ・ブラスト処理 ・ブラスト以外の特別な処理 ブラスト以外の特別な処理とする場合の処理方法及びすべり耐力等の確認方法 ※図示による
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 材料（8.2.2）	2節 補強コンクリートブロック造 ブロックの種類 断面形状及び圧縮強さによる区分 ※空洞ブロック16 ・その他（ ） 正味厚さ、モデュール呼び寸法 ※図示による
	2 コンクリートの調合（8.2.4）	充填用及びまぐさ以外のコンクリートの設計基準強度（Fc：N/mm2） ※21N/mm2 ・その他（ ）
	3 鉄筋の加工及び組立（8.2.5）	各部の配筋 ※図示による
	4 材料（8.3.2）	3節 コンクリートブロック帳壁及び塀 ブロックの圧縮強さ、正味厚さ、モデュール呼び寸法及び種類 ・図示による 塀の場合で化粧者りのブロックの適用 ※図示による
	5 鉄筋の加工及び組立（8.3.3）	各部の配筋 ※図示による
	6 材料（8.4.2）	4節 ALCパネル パネルの種類等 ※図示による
	7 外壁パネル構法（8.4.3）	外壁パネル構法 ・A種 ・B種 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※図示による 出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅 ※図示による パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取合い部の伸縮目地 ・耐火目地材を充填する
	8 開仕切壁パネル構法（8.4.4）	開仕切壁パネル構法 ・C種 ・D種 ・E種
	9 材料（8.5.2）	5節 押出成形セメント板（ECP） パネルの種類、厚さ等 ※図示による
	10 外壁パネル工法（8.5.3）	外壁パネル工法 ・A種 ・B種 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※図示による パネル地互の目地幅 ・図示による 出隅及び入隅のパネル接合目地幅 ※15mm ・その他（ ） 耐火構造以外の目地及び開口部の処理 ・図示による
	11 開仕切壁パネル工法（8.5.4）	開仕切壁パネル工法 ・B種 ・C種
	12 清掃口及び開口部の処置（8.5.5）	パネルに欠き込み等を行う場合のパネルの開口部の補強 ※図示による
9 防水工事	1 材料（9.2.2）	2節 アスファルト防水 改質アスファルトルーフィングシート等の種類及び厚さ ・図示による 押え金物の材質及び形状寸法 ・図示による 屋根保護防水断熱工法及び屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材の材質及び厚さ ・図示による 絶縁用シートに使用する材料 ・図示による 立上り部の保護のれんが ・図示による
	2 防水層の種類、種別及び工程（9.2.3）	防水層の工法による種類及び工程 ・A－1 ・A－2 ・A－3 ・A1－1 ・A1－2 ・A1－3 ・B－1 ・B－2 ・B－3 ・B1－1 ・B1－2 ・B1－3 ・D－1 ・D－2 ・D－3 ・D－4 ・D1－1 ・D1－2 ・E－1 ・E－2 立上り部における保護コンクリートの適用及び工法 ※図示による 屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法 脱気装置の種類及び設置数量 ・図示による 仕上げ塗料の種類及び使用量 ※図示による 屋内防水密閉工法における保護部 ※図示による
	3 施工（9.2.4）	防水層の下地をモルタル塗りとする場合の適用箇所 ※図示による 立上りコンクリートの打放し仕上げの種別 ・A種 ・B種 ・C種 屋根露出防水絶縁断熱工法のルーフドレイン回りと立上り部周辺の断熱材の張りにくい位置 ※図示による
	4 保護層等の施工（9.2.5）	平場保護コンクリートの厚さ ・図示による 立上り部の保護 ※図示による 屋上排水溝 ※図示による
	5 材料（9.3.2）	3節 改質アスファルトシート防水 改質アスファルトシート等の種類及び厚さ ・図示による 屋根露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材の材質及び厚さ ・図示による
	6 防水層の種別及び工程（9.3.3）	防水層の工程による種別 ・AS－T1 ・AS－T2 ・AS－J1 ・AS－T3 ・AS－T4 ・AS－J2 ・AS1－T1 ・AS1－J1 屋根露出防水絶縁構法及び屋根露出防水絶縁断熱工法における脱気装置の種類及び設置数量 ・図示による 屋根露出防水絶縁断熱工法における防湿層の設置 ※図示による
	7 材料（9.4.2）	4節 合成高分子系ルーフィングシート防水 ルーフィングシートの種類 ※図示による ルーフィングシートの厚さ ・図示による 絶縁用シートの材質 ※塩ポリエチレンシート ・その他（ ） 断熱工法に用いる断熱材の材質及び厚さ ・図示による
	8 防水層の種別及び工程（9.4.3）	防水層の工法及び工程による種別 ・S－F1 ・S－F2 ・S－M1 ・S－M2 ・S－M3 ・S1－F1 ・S1－F2 ・S1－M1 ・S1－M2
	9 施工（9.4.4）	PCコンクリート部材下地の目地処理 ※図示による 種別S－F1及びS1－F1の場合のPCコンクリート部材の入隅部の増張り ※図示による 一般部のルーフィングシートの張付けを機械的固定方法で行う場合 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※図示による
	10 防水層の種別及び工法（9.5.3）	5節 塗膜防水 ・ウレタンゴム系塗膜防水 防水層の工程による種別 ・X－1 ・X－2 種別X－1の場合の脱気装置の種類及び設置数量 ※図示による ・ゴムアスファルト系塗膜防水 防水層の工程による種別 ・Y－1 ・Y－2 種別Y－2における保護層 ・敷げる ・設けない
	11 適用範囲（9.6.1）	6節 FRP防水 適用部位 ・図示による
	12 防水層の種別及び工程（9.6.3）	防水層の種別及び工程 ※メーカー仕様
	13 施工（9.6.4）	下地処理 ※メーカー仕様
	14 材料（9.7.2）	7節 シーリング シーリング材の種類及び施工箇所 ・図示による
	15 目地寸法（9.7.3）	シーリング材の目地寸法 ・図示による
	16 シーリング材の試験（9.7.5）	接着性試験 ・行う ・行わない ※四辺接着性試験 ・引張接着性試験
10 石工事	14 補償規定	その他 完請業者、施工業者、製造所の三者連帯による保証式を監督員に提出する。 保証期間 ※工事引渡し後 10年間 ・工事引渡し後 （ ）年間
	1 施工一般（10.1.3）	1節 一般事項 石材の割付け ・図示による
	2 石材（10.2.1）	2節 材料 天然石 品質 ・図示による 種類 ※図示による 形状及び寸法 ・図示による 表面仕上げ ※図示による ジェットバーナーの場合のバフ仕上げ ・有 ・無 テラゾ 種石の種類及び大きさ ・図示による テラゾブロックの形状による区分、仕上げ面による区分及び寸法 ※図示による テラゾタイルの寸法による区分 ※図示による 表面仕上げ ・細磨き ・水磨き ・本磨き
	3 取付け金物（10.2.2）	外壁湿式工法及び内壁空張工法の受金物の材質、形状及び寸法 ・図示による 乾式工法の金物の種類及び形状・寸法等 ・スライド方式 ・ロッキング方式 特殊部位用金物 引金物、だほ、かすがい及び受金物 ・図示による フックター ・図示による 吊金物及び化粧用ボルトの材質並びに形状 ・図示による アンカーの材質及び寸法 ・図示による あと施工アンカーの材質及び寸法等 ※図示による その他の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による
	4 その他の材料（10.2.3）	敷付け用モルタル ・図示による 既張合の目地用モルタル ・図示による 石裏面処理材 ・図示による 裏打ち処理材 ・図示による 外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質 ※図示による 金物の固定に使用する充填材料等 ・図示による
	5 材料（10.3.2）	3節 外壁湿式工法 石材の厚さ ・図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 裏打ち処理 ・行う ・行わない
	6 施工（10.3.3）	下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 ・あと施工アンカー・横筋流し工法 一般目地の目地幅 ・図示による 伸縮調整目地の位置及びシーリング材の目地寸法 ・図示による
	7 材料（10.4.2）	4節 内壁空積工法 石材の厚さ ・図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 裏打ち処理 ・行う ・行わない
	8 施工（10.4.3）	下地ごしらえ ・あと施工アンカー工法 ※あと施工アンカー・横筋流し工法 一般目地の目地幅 ・図示による 伸縮調整目地の位置及びシーリング材の目地寸法 ・図示による
	9 材料（10.5.2）	5節 乾式工法 石材の厚さ ・図示による だほ用の穴の位置 ・図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 裏打ち処理 ・行う ・行わない
	10 施工（10.5.3）	外壁に適用する場合の建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※図示による 目地幅 ・図示による 目地をシーリング材で仕上げる場合 ・図示による
	11 床の石張り（10.6.2）	6節 床及び階段の石張り 石材の厚さ ※図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 一般目地の目地幅及び伸縮調整目地の位置 ・図示による
	12 階段の石張り（10.6.3）	石材の厚さ ※図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 一般目地の目地幅及び伸縮調整目地の位置 ・図示による
	13 適用範囲（10.7.1）	7節 特殊部位の石張り 石材の取付け工法 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
	14 アーチ、上げ裏等の石張り（10.7.2）	石材の厚さ ※図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 裏打ち処理 ・行う ・行わない 一般目地の目地幅及び伸縮調整目地の位置 ・図示による
	15 笠木、甲板等の石張り（10.7.3）	石材の厚さ ※図示による 石裏面処理 ・行う ・行わない 乾式工法の場合の取付け代 ・図示による 乾式工法の石笠の補強用モルタル ・用いる ・用いない 外壁湿式工法の場合の一般目地の目地幅 ・図示による 伸縮調整目地の位置及びシーリング材の目地寸法 ・図示による 乾式工法の場合の目地幅 ・図示による
	16 隅で板（10.7.4）	石材の厚さ ・図示による
11 タイル工事	1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地（11.1.3）	1節 一般事項 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※図示による
	2 材料（11.2.2）	2節 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り タイルの形状、寸法、用途による区分、耐凍害性の有無、凍り抵抗性、標準色・特注色の別等 ※図示による 役物の適用 ※図示による タイルの試験張り、見本焼き等 ・行う ・行わない
	3 施工（11.2.7）	整タイル張りの工法 内装タイル ・改良積上げ張り 外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
	4 材料（11.3.2）	3節 接着剤による陶磁器質タイル張り タイルの形状、寸法、用途による区分、耐凍害性の有無、凍り抵抗性、標準色・特注色の別等 ※図示による 役物の適用 ※図示による タイルの試験張り、見本焼き等 ・行う ・行わない
	5 シーリング材（11.3.4）	目地のシーリング材 ・図示による
	6 施工（11.3.7）	整タイル張りの工法 内装タイル ・内装整タイル接着剤張り 外装タイル ・外装整タイル接着剤張り 内装タイル以外のユニットタイル ・外装整タイル接着剤張り
	7 材料（11.4.2）	4節 陶磁器質タイル型枠先付け タイルの形状、寸法、用途による区分、標準色・特注色の別等 ※図示による 役物の適用 ※図示による タイルの試験張り、見本焼き等 ・行う ・行わない タイル型枠先付け面のせき板 ・図示による
	8 タイル型枠先付けの種類（11.4.3）	タイル型枠先付けの種類 ・タイルシート工法 ・目地側法 ・桟木法
12 木工事	1 表面仕上げ（12.1.4）	1節 一般事項 見え掛り面の表面仕上げの程度 適用箇所 ※図示による 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種
	2 木材（12.2.1）	2節 材料 製材 ・下地用針葉樹製材 含水率 ※A種 ・B種 樹種、寸法、等級、形状 ※図示による 代用樹種の禁止 ・紀州材については代用樹種を使用することはできない ・造作用針葉樹製材 含水率 ※A種 ・B種 樹種、寸法、等級、形状 ※図示による 代用樹種の禁止 ・紀州材については代用樹種を使用することはできない ・広葉樹製材 含水率 ※A種 ・B種 樹種、寸法、等級、形状 ※図示による 代用樹種の禁止 ・紀州材については代用樹種を使用することはできない ・「製材の日本農林規格」以外の製材 含水率 ※A種 ・B種 下地、造作及び仕上げに用いる製材の樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、防腐処理 ※図示による 造作材の材面の品質 ※A種 ・B種 樹種 ※図示による 代用樹種の禁止 ・紀州材については代用樹種を使用することはできない 造作用集成材 ・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 ・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ・造作用集成材 樹種、寸法、見付け材面の品質及び含水率 ※図示による ・化粧ばり造作用集成材 樹種、寸法、化粧薄板の厚さ、見付け材面の品質及び含水率 ※図示による ・化粧ばり造作用集成材 樹種、寸法、見付け材面の品質、化粧薄板の厚さ及び含水率 ※図示による 造作用単板積層材 ・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 ・「単板合成材の日本農林規格」以外の造作用単板合成材 厚さ ※図示による 表面の品質 表面の化粧加工 ・有り（・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（※図示による） 含水率及び防虫処理 ※図示による 床張り用合板等 ・普通合板 厚さ、表板の樹種名、接着の種度及び板面の品質 ※図示による ・構造用合板 等級、表板の樹種名、接着の程度、板面の品質及び厚さ ※図示による ・パーティクルボード 表裏面の状況による区分、曲げ強さによる区分、接着剤による区分、難燃性による区分及び厚さ ※図示による ・構造用パネル 等級及び厚さ ※図示による
	3 防腐・防蟻処理（12.3.1）	3節 防腐・防蟻・防虫処理 下地木材への防腐・防蟻処理 防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材 ・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 適用部位及び保存処理性能区分 ※図示による ・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 処理の方法 ・図示による ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理
	4 防虫処理（12.3.2）	防虫処理 ※図示による
	5 木材（12.4.1）（12.5.4）（12.6.1）（12.7.1）	4節 鉄筋コンクリート造等の内部開性切軸組及び床組 5節 窓、出入口その他 6節 床板張り 7節 壁及び天井下地 間仕切軸組に用いる木材 ・図示による 床組に用いる木材 ・図示による 窓、出入口その他に用いる木材 ・図示による 縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 ・図示による 壁及び天井下地に用いる木材 ・図示による
	6 紀州材	その他 ※本工事に使用する木材については、原則として紀州材の杉又はひのきとし、適用箇所等は図示による。 紀州材とは、県内の森林で生産され、県内で製材加工された木材及び木材加工品をいう。紀州材であることを証明する書類として「紀州材証明書」の提出が必要。（和歌山県条例第14号「和歌山県木材変者の登録に関する条例」において登録された者より購入した場合に発行される）
13 屋根及びとい工事	1 材料（13.2.2）	2節 長尺金属板葺 長尺金属板の種類に応じた板、コイルの種類、塗膜の耐久性の種類、めっき付着量、厚さ等 ※図示による 下葺材料の種類 ※図示による
	2 工法（13.2.3）	屋根葺形式 ※図示による 屋根葺工法 ※図示による 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※図示による 雪止め ・設置する ・設置しない
	3 材料（13.3.2）	3節 折板葺 折板の形式、山高、山ピッチ、耐力及び材料による区分並びに厚さ ※図示による 折板に使用する材料 ※図示による 軒先妻戸板 ・使用する ・使用しない
	4 工法（13.3.3）	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※図示による
	5 材料（13.4.2）	4節 粘土瓦葺 粘土瓦の種類、大きさ、斧地等 ※図示による 役物瓦の種類、雪止め瓦の使用等 ※図示による 瓦桟木の材質、寸法等 ※図示による 棟補強用心材の材質、寸法 ・図示による 下葺材料の種類 ・図示による
	6 工法（13.4.3）	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※図示による 桟木の留付け工法 ※図示による 棟の工法 ・7寸丸伏せ棟 ・のし一体棟 ・のし積み棟
	7 材料（13.5.2）	5節 とい といその他の材種等 ※図示による
	8 工法（13.5.3）	鋼板製といの防錆巻工法 ・図示による
14 金属工事	1 工法（14.1.3）	1節 一般事項 あと施工アンカーの引抜き耐力の確認試験 ※行う ・行わない 設計用引張強度 ・図示による
	2 ステンレスの表面仕上げ（14.2.1）	2節 表面処理 表面仕上げの種類 ・図示による
	3 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理（14.2.2）	表面処理の種別及び皮膜又は複合皮膜の種類 ・A－1種 ・A－2種 ・B－1種 ・B－2種 ・C－1種 ・C－2種 ・D種 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・その他（ ） 色合等 ※図示による
	4 鉄鋼の亜鉛めっき（14.2.3）	亜鉛めっきの種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・F種
	5 材料（14.4.2）	4節 軽量鉄骨天井下地 野縁等の種類 ・図示による
	6 形式及び寸法（14.4.3）	屋外の野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ※図示による 屋外の野縁の間隔 ※図示による
	7 工法（14.4.4）	吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示による 天井のふところが1.5m以上の場合の補強方法 ・図示による 天井のふところが3mを超える場合の補強方法 ※図示による 天井下地におけるの耐震性を考慮した補強 ※図示による 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ※図示による
	8 形式及び寸法（14.5.3）	5節 軽量鉄骨壁下地 スタッド、ランナーの種類 ・50形 ・65形 ・90形 ・100形 スタッドの高さが5mを超える場合のスタッド、ランナーの種類 ※図示による
	9 材料（14.6.2）	6節 金属成形板張り 金属成形板の種別及び表面処理 ※図示による
	10 工法（14.6.3）	取付け用下地 ・図示による
	11 材料（14.7.2）	7節 アルミニウム製笠木 笠木の主な構成部材の種類 ※図示による 笠木本体の材料の表面処理 ※図示による
	12 工法（14.7.3）	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法等 ※図示による
	13 手すり（14.8.2）	8節 手すり及びタラップ 材料の種別 ※図示による 材料の表面処理の種別 ・図示による
	14 タラップ（14.8.3）	材料の種別 ※図示による 材料の表面処理の種別 ・図示による
15 左官工事	1 材料（15.2.2）	2節 モルタル塗り 既製目地材の適用及び形状 ※図示による
	2 工法（15.2.5）	床の目地の設置及び工法 ・図示による 外壁タイル張り下地等の均しモルタルの接着力試験 ・行う ・行わない
	3 材料（15.4.2）	4節 セルフレベリング材塗り セルフレベリング材の種類及び品質 ※図示による
	4 材料（15.5.2）	5節 仕上塗材仕上げ 仕上塗材の種類、仕上げの形状及び工法 ※図示による 内装薄塗材及び内装厚塗材で吸放湿性を有する塗材 ・図示による 内装難塗材WC耐湿性を必要とするもの ・図示による 複層仕上塗材の耐候性 ・耐候形1種 ・耐候形2種 ※耐候形3種 複層仕上塗材の上塗材の種類 ※水系アクリルのつやあり ・図示による
	5 下地処理（15.5.4）	ALCパネル下地の内壁目地部の形状 ※V形目地付き ・その他（ ）
	6 所要量等の確認（15.5.7）	確認方法 ※標準仕様書15.5.4及び単位面積当たりの使用量によること
	7 マスチック塗材塗り（15.6.2）	6節 マスチック塗材塗り マスチック塗材塗りの種別 ・A種 ・B種 仕上材塗りの種類及び適用 ※図示による
	8 配合及びかき混ぜ等（15.6.3）	6節 ロックウール吹付け 仕上げ吹付け厚さ ※図示による
16 建具工事		別紙キープラン、建具リストに依る
	1 防火戸（16.1.3）	1節 一般事項 防火戸の指定 ※図示による 防火戸の自動閉鎖機構等 ※図示による
	2 見本の製作等（16.1.4）	建具見本の製作 ・製作する ・製作しない 特殊な建具の仮組 ・実施する ・実施しない
	3 その他（16.1.6）	防犯建物部品の適用 ※図示による
	4 性能及び構造（16.2.2）	2節 アルミニウム製建具 外部に面する建具 耐風圧性 （種別： 種 等級：S－ ） 気密性 （種別： 種 等級：A－ ） 水密性 （種別： 種 等級：W－ ） 内部建具 耐風圧性 （種別： 種 等級：S－ ） 気密性 （種別： 種 等級：A－ ） 水密性 （種別： 種 等級：W－ ） 防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級 ※図示による（遮音性：T－ ） 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級 ※図示による（断熱性：H－ ） 耐震ドアセット、面内変形追随性の適用及び等級 ※図示による（面内変形追随性：D－ ）
	5 材料（16.2.3）	防虫網の材料 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製（SUS316）
	6 形状及び仕上げ（16.2.4）	建具の枠の見込み寸法 ・図示による アルミニウムの表面処理の種別及び標準色・特注色の別 ※図示による 結露水の処理方法 ※図示による
	7 工法（16.2.5）	水切り板、ぜん板等の加工及び植立 ※図示による
	8 性能及び構造（16.3.2）	3節 樹脂製建具 外部に面する建具 耐風圧性 （種別： 種 等級：S－ ） 気密性 （種別： 種 等級：A－ ） 水密性 （種別： 種 等級：W－ ） 枠の見込み寸法 ※図示による 内部建具 耐風圧性 （種別： 種 等級：S－ ） 気密性 （種別： 種 等級：A－ ） 水密性 （種別： 種 等級：W－ ） 枠の見込み寸法 ※図示による 防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級 ※図示による（遮音性：T－ ） 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級 ※図示による（断熱性：H－ ）
	9 形状及び仕上げ（16.3.4）	建具の枠の見込み寸法 ※図示による 表面色 ・標準色 ・特注色
	10 工法（16.3.5）	水切り板、ぜん板等の加工及び植立 ※図示による
	11 性能及び構造（16.4.2）	4節 鋼製建具 簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の等級 ※図示による 外部に面する鋼製建具の耐風圧性能 ※（S－ ） 防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級 ※図示による（遮音性：T－ ） 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級 ※図示による（断熱性：H－ ） 耐震ドアセット、面内変形追随性の適用及び等級 ※図示による（面内変形追随性：D－ ）
	12 材料（16.4.3）	鋼板の種類及びめっきの付着量 ※図示による
	13 形状及び仕上げ（16.4.4）	鋼板類の厚さ ・図示による

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE	DRAWING. No. A／02
図面名	特記仕様書（2）	SCALE	FREE(A1) FREE(A3)
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号234400		

別紙キープラン、建具リストに依る

16 建具工事

14 性能及び構造 (16.5.2)	５節　鋼製軽量建具 防気密型ドアセットの適用　※図示による 防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級　※図示による（遮音性：Ｔ－　） 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級　※図示による（断熱性：Ｈ－　） 耐火ドアセット、面内変形追随性の適用及び等級　※図示による（面内変形追随性：Ｄ－　）	
15 材料 (16.5.3)	ビニル被覆鋼板　※図示による カラー鋼板　※図示による 目合せ、視小口色み板等の材質　・図示による	
16 形状及び仕上げ (16.5.4)	鋼板組の厚さ　・図示による	
17 性能及び構造 (16.6.2)	６節　ステンレス製建具 簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の等級　※図示による 外部に面する開閉建具の耐風圧性能　※（Ｓ－　） 防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級　※図示による（遮音性：Ｔ－　） 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級　※図示による（断熱性：Ｈ－　） 耐震ドアセット、面内変形追随性の適用及び等級　※図示による（面内変形追随性：Ｄ－　）	
18 材料 (16.6.3)	ステンレス鋼板の材料　・図示による	
19 形状及び仕上げ (16.6.4)	表面仕上げ　・図示による	
20 工法 (16.6.5)	ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ	
21 材料 (16.7.2)	７節　木製建具 建具材の加工、組立時の含水率　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種 フラッシュ戸の表面材の含水率の種類の適用及び品質等　・図示による かまち及び鏡板の樹種　※図示による ふすまの上張りの種類　※図示による 枠及びくつずりの材料　※図示による	
22 形状及び仕上げ (16.7.3)	フラッシュ戸の表面板の厚さ　・図示による かまち戸の見込み寸法　・図示による ふすまの見込み寸法　・図示による 戸ぶすまの見込み寸法　・図示による 結張り障子の見込み寸法　・図示による	
23 工法 (16.7.4)	フラッシュ戸の工法で引戸の定規組の召合せかまちをいんろう付とする場合　※図示による ふすまの縁の仕上げ　※図示による	
24 適用範囲 (16.8.1)	８節　建具用金物 既製又はこれに準ずる金物の機能上必要な最小限の仕様　・図示による	
25 材質、形状及び寸法 (16.8.2)	金物の種類及び見え掛り部の材質　※図示による 樹脂製建具に使用する丁番　・図示による	
26 取付け施工 (16.8.3)	握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセント等の取付け位置　※図示による	
27 鍵 (16.8.4)	マスターキー　・製作する　・製作しない 鍵の本数　※３本１組　・その他（　　）	
28 性能 (16.9.2)	９節　自動ドア開閉装置 スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値　・図示による スイングドア用自動ドア開閉装置の性能値　・図示による	
29 機構 (16.9.3)	戸の開閉方法　※図示による センサーの種類　※図示による 寒冷地における凍結防止装置　※図示による	
30 性能等 (16.10.3)	10節　自閉式上吊り引戸装置 自閉式上吊り引戸装置の性能　・図示による	
31 形式及び機構 (16.11.2)	11節　重量シャッター シャッターの種類　※図示による 一般重量シャッター及び外壁用防火シャッターの耐風圧強度　※図示による 開閉機能による種類　※上部電動式　・上部手動式 シャッターケース　・設ける　・設けない	
32 材料 (16.11.3)	スラット及びシャッターケース用鋼板の種類及びめっきの付着量　※図示による	
33 形式及び機構 (16.12.2)	12節　軽量シャッター 開閉形式　・上部電動式　※手動式 耐風圧強度　※図示による	
34 材料 (16.12.3)	スラットの材質　※図示による	
35 形状及び仕上げ (16.12.4)	スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形	
36 形式及び機構 (16.13.2)	13節　ウッドドア セクション材料による区分　※スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　・ファイバーグラスタイプ 耐風圧性能の区分　※図示による 開閉方式　※バランス式　・チェーン式　・電動式 収納形式　・スタンダード形　・ローヘッド形　・ハイリフト形　・バーチカル形	
37 材料 (16.13.3)	ガイドレールに使用する材料　※溶融亜鉛めっき鋼板　・ステンレス鋼板	
38 材料 (16.14.2)	14節　ガラス 板ガラスの種類、品種及び厚さ等　※図示による ガラス留め材の種別 ・シーリング（種類記号　　） ・ガスケット（種類　　）	
39 ガラス溝の寸法、形状等 (16.14.3)	板ガラスをはめ込む溝の大きさ　・図示による	
40 工法 (16.14.4)	熱線反射ガラスの映像調整　・行う　・行わない	
41 ガラスブロック積み (16.14.5)	ガラスブロックの表面形状及び呼び寸法及びに厚さ　※図示による 壁用金属枠及び補強材　※図示による 力骨の材質、寸法、形状　・図示による 化粧目地モルタルの色　※図示による シーリング材の種類　※図示による 金属製化粧カバーの材質、寸法、形状　※図示による 建築基準法に基づき定まる風圧に対応した工法　※図示による 目地幅の寸法　・図示による 伸縮調整目地の位置　・図示による 目地部の力骨の補強方法　・図示による	

17 カーテンウォール

1 性能 (17.1.3)	１節　一般事項 カーテンウォールの耐風圧性等の諸性能値　※図示による 性能の確認方法及び判定方法　・図示による	
2 材料 (17.2.2)	２節　メタルカーテンウォール 使用する金属材料の種類　※図示による シーリング材の種類　※図示による ガラス取付け材料に使用するシーリングの種類　※図示による ガラス取付け材料に使用する構造ガスケットの形状及び寸法等　※図示による 断熱材　※図示による	
3 形状及び仕上げ (17.2.3)	製品の寸法許容差　・図示による 製品の見え掛り部分の仕上げ　※図示による ガラス溝の寸法、形状等　・図示による	
4 取付け (17.2.5)	躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差　・図示による カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差　・図示による	
5 ガラスの取付け (17.2.6)	構造ガスケットを用いるガラスの取付け　※図示による	
6 材料 (17.3.2)	３節　ＰＣカーテンウォール コンクリートの種類及び品質　・図示による 所要スランプ　・図示による 鉄筋の種類の記号　・図示による 補強鉄線の寸法　・図示による シーリング材の種類　※図示による 耐火目地材　※図示による 断熱材　※図示による 先付け材料である建具枠やゴンドラ用ガイドレール等　※図示による	
7 形状及び仕上げ (17.3.3)	製品見え掛り部の寸法許容差　・図示による ＰＣカーテンウォールの仕上げ　※図示による 構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差　※図示による	
8 製作 (17.3.4)	鉄筋の配筋　・図示による	
9 取付け (17.3.5)	躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差　・図示による カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差　・図示による	
10 ガラスの取付け (17.3.6)	構造ガスケットを用いるガラスの取付け　※図示による	

18 塗装工事

1 各部の素地ごしらえ (18.2.2) (18.2.3) (18.2.4) (18.2.5) (18.2.6) (18.2.7)	２節　素地ごしらえ 各素地面における素地ごしらえの種別 木部　・Ａ種　・Ｂ種 鉄鋼面　・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種 亜鉛めっき鋼面　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 モルタル面及びプラスター面　・Ａ種　※Ｂ種 コンクリート面、ＡＬＣパネル面　・Ａ種　※Ｂ種 せっこうボード面及びその他ボード面　・Ａ種　・Ｂ種	
2 塗装種別 (18.3.2)	３節　鋼止め塗料塗り 亜鉛めっき鋼面鋼止め塗料の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種	
3 鋼止め塗料塗り (18.3.3)	鉄鋼面鋼止め塗料の種別　・Ａ種　・Ｂ種 亜鉛めっき鋼面鋼止め塗料の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種	
4 塗料の種類 (18.4.2)	４節　合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ） ５節　クリヤラッカー塗り（ＣＬ） ６節　アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ） ７節　耐候性塗料塗り（ＤＰ） ８節　つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ） ９節　合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ） 10節　合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ） 11節　ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ） 12節　ラッカーエナメル塗り（ＬＥ） 14節　木材保護塗料塗り（ＷＰ）	
5 各塗り等の種別 (18.4.3) (18.4.4) (18.5.2) (18.6.2) (18.7.4) (18.8.2) (18.8.4) (18.9.2) (18.10.2) (18.11.2) (18.12.2) (18.14.2)	各塗り等の種別 木部合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）　・Ａ種　・Ｂ種 鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）　・Ａ種　※Ｂ種 クリヤラッカー塗り（ＣＬ）　・Ａ種　※Ｂ種 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）　・Ａ種　※Ｂ種 亜鉛メッキ鋼面耐候性塗料塗り（ＤＰ）　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 コンクリート面及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗り（ＤＰ）　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 コンクリート面等つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）　・Ａ種　※Ｂ種 鉄鋼面つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）　・Ａ種　※Ｂ種 合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）　・Ａ種　※Ｂ種 合成樹脂エマルション模様塗装塗り（ＥＰ－Ｔ）　・Ａ種　※Ｂ種 ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）　・Ａ種　※Ｂ種 ラッカーエナメル塗り（ＬＥ）　・Ａ種　※Ｂ種 木材保護塗料塗り（ＷＰ）　・Ａ種　※Ｂ種	

19 内装工事

1 材料 (19.2.2)	２節　ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り ビニル床シートの種類の記号、色柄、厚さ等　※図示による ビニル床タイルの種類、厚さ等　※図示による 帯電防止床シート又は帯電防止床タイルの種類、性能、厚さ等　※図示による 視覚障害者用床タイルの種類、形状　※図示による 耐動荷重性床シートの種類、厚さ等　※図示による 防滑性床シート又は床タイルの種類、性能、厚さ等　※図示による ビニル幅木の厚さ、高さ等　・図示による ゴム床タイルの種類、厚さ等　※図示による	
2 施工 (19.2.3)	ビニル床シート張りの熱溶接工法　・行う　・行わない	
3 材料及び工法 (19.3.3) (19.3.4)	３節　カーペット敷き 織じゅうたんの種別、織り方、パイルの形状及び帯電性　※図示による タフテッドカーペットのパイルの形状、パイル長及び帯電性　※図示による 工法　・グリッパー工法　・全面接着工法 ニードルパンチカーペットの厚さ及び帯電性　※図示による タイルカーペットの種類、パイルの形状、寸法、総厚さ及び敷き方等　※図示による 下敷き材　・図示による 取付け用付属品である見切り、押え金物の材質、種類及び形状　※図示による	
4 工法 (19.4.3)	４節　合成樹脂塗床 強性ウレタン樹脂系塗床の仕上げの種類　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ エポキシ樹脂系塗床の工法及び仕上げの種類 ・流展流し展べ工法・仕上げ　・厚膜流し展べ工法・仕上げ　・樹脂モルタル工法・仕上げ	
5 材料 (19.5.2)	５節　フローリング張り フローリングの品名　※図示による	
6 工法一般等 (19.5.3) (19.5.4) (19.5.5) (19.5.6)	フローリング張りの工法 ・乾式工法（釘留め工法） ・根太張り工法　・直張り工法 ・フローリングボード 樹種　※なら　・その他（　　） ・複合フローリング 樹種　※なら　・その他（　　） 種別　・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種 Ｃ種の場合の防湿処理　・必要　・不要 ・乾式工法（接着工法） モザイクパーケット以外の樹種　※なら　・その他（　　） モザイクパーケットの樹種、厚さ及び大きさ　※図示による フローリング裏面の接着材　※各成樹脂発泡シート　・その他（　　） ・湿式工法（モルタル埋込み工法） フローリングブロックの樹種、厚さ及び大きさ　・図示による	
7 仕上げ (19.5.7)	塗装　※ウレタン樹脂ワニス塗り　・オイルステイン塗り　・生地のままワックス塗り	
8 材料 (19.6.2)	６節　畳敷き 畳の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 Ｄ種の場合の畳床記号　・ＫＴ－Ⅰ　・ＫＴ－Ⅱ　・ＫＴ－Ⅲ　・ＫＴ－Ｋ　・ＫＴ－Ｎ	
9 材料 (19.7.2)	７節　せっこうボード、その他ボード及び合板張り せっこうボード、その他のボード類の適用箇所、種類、厚さ　※図示による 普通合板の表板の樹種名、板面の品以、厚さ、接着の程度及び処理（防虫、難燃、防炎）　・図示による 天然木化粧合板の化粧板の樹種名、接着の程度、厚さ及び処理（防虫、難燃、防炎）　・図示による 特殊加工化粧合板の化粧加工の方法、裏面性能、接着の程度、厚さ及び処理（防虫、難燃、防炎）　・図示による 軽量鉄骨下地ボード通り壁に用いる通り壁シール材　※図示による ※　化粧ケイカル板　ＤＩＣ株式会社：フネンＷＯ－６ａｎ　同等	
10 工法 (19.7.3)	すじかいの種類　※図示による 合板張の張付け　・Ａ種　※Ｂ種 せっこうボードの目地工法の種類　・継目処理工法　・突付け工法　・目透し工法	

20 ユニット及びその他の工事

11 材料 (19.8.2)	８節　壁紙張り 壁紙の品質及び防火性能　※図示による	
12 施工 (19.8.3)	コンクリート面の素地ごしらえ　・Ａ種　※Ｂ種 せっこうボード面の素地ごしらえ　・Ａ種　※Ｂ種	
13 断熱材打込み工法 (19.9.2)	９節　断熱・防露 断熱材の種類及び厚さ　※図示による	
14 断熱材現場発泡工法 (19.9.3)	断熱材の種類　※Ａ種１　・Ａ種２　・Ａ種３　・Ｂ種 断熱材の吹付け厚さ　※図示による	
1 フリーアクセスフロア (20.2.2)	２節　ユニット工事等 フリーアクセスフロア及び表面仕上げ材の寸法、フリーアクセスフロア高さ、耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏洩抵抗 ※図示による フリーアクセスフロアの耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐疲労性能　・図示による 寸法精度　・図示による	
2 可動間仕切 (20.2.3)	構造形式による種類、構成基材の種類及び遮音性　※図示による パネル表面仕上げ　※図示による パネル内に取り付ける建具の寸法及び形状　※図示による	
3 移動間仕切 (20.2.4)	パネルの接作方法による種類並びにパネル表面材の材質及び仕上げ　※図示による パネル圧接装置の操作方法　※図示による 遮音性能　※図示による ハンガーレール取付け下地の補強　・図示による ハンガーレールの躯体又は下地補強材への固定方法　・溶接　・あと施工アンカー筋 あと施工アンカーの材質、寸法等　※図示による	
4 トイレブース (20.2.5)	パネル表面材の種類　・メラミン樹脂系　・ポリエステル樹脂系化粧板 脚部　・図示による	
5 階段滑り止め (20.2.6)	材種、形状、寸法等　※図示による 取付け工法　※接着工法　・埋込み工法	
6 黒板及びホワイトボード (20.2.8)	黒板の種類　※横付け　・その他（　　） 黒板の色　※緑　・その他（　　）	
7 鏡 (20.2.9)	鏡の厚さ　※５mm　・その他（　　）	
8 表示 (20.2.10)	ガラススクリーンに対する対人衝突防止表示の形状、寸法、材質等　※図示による 非常用進入口等の表示　※図示による 室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、塗体、印刷等の種別、取付け形式等 ※図示による	
9 煙突ライニング (20.2.11)	煙突用成形ライニング材の適用及び適用安全使用温度 ※図示による	
10 ブラインド (20.2.12)	・横型 種類、幅、高さ及びスラットの幅並びにスラット、ヘッドボックス及びボトムレールの材種 ※図示による ・縦型 幅及び高さ並びに開閉方式及び操作方法　※図示による スラットの適用及び種　※図示による	
11 ロールスクリーン (20.2.13)	操作方式、幅及び高さ、材種、品質等　※図示による 巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料　・図示による	
12 カーテン及びカーテンレール (20.2.14)	シングル、ダブルの別、片引き、引分け等の形式、開閉操作方式　※図示による カーテン用きれ地の種別、品質、特殊加工等　※図示による カーテンレール及びブラケットの強さによる区分等　・図示による カーテンのひだの種類　※図示による 縫製用カーテンの周端、上部及び袋仕の等なり　・図示による	
13 材料 (20.3.2)	３節　プレキャストコンクリート工事 補強鉄線の種　・図示による	
14 製作 (20.3.3)	コンクリートの設計基準強度　・図示による 鉄筋の配筋　・図示による	
15 基生その他 (20.3.4)	取付け方法　※図示による	
⑯ ベンチ	参考品番　積水　オレンジウッドＥ　スタジアムベンチ KF-OWEB-SL418	

21 排水工事

1 排水管 (21.2.1)	２節　材料 排水管用材料の材種、管の種類、呼び径等　※図示による	
2 側溝、排水桝等 (21.2.2)	側溝の形状及び寸法　※図示による 排水桝及びふたの種類等　※図示による 鋳鉄製ふたの名称、種類及び適用荷重　※図示による グレーチングの材質、用途、適用荷重、メインバーピッチ等　※図示による	
3 その他の材料 (21.2.3)	地覆の材料　※図示による コンクリート　・図示による 埋戻しに用いる材料　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種	
4 工法 (21.3.3)	３節　施工 遠心力鉄筋コンクリート管の基床の厚さ及び種類　※図示による 硬質ポリ塩化ビニル管の基床の厚さ及び種類　※図示による 硬質ポリ塩化ビニル管の継手　※接着剤　・ゴム輪	
5 材料 (21.4.2)	４節　切きょ、縁石及び側溝 コンクリート縁石及び側溝の形状、寸法等　※図示による 地覆の材料　・図示による	
6 施工 (21.4.3)	砂利地覆の厚さ　※１００mm　・その他（　　）	

22 舗装工事

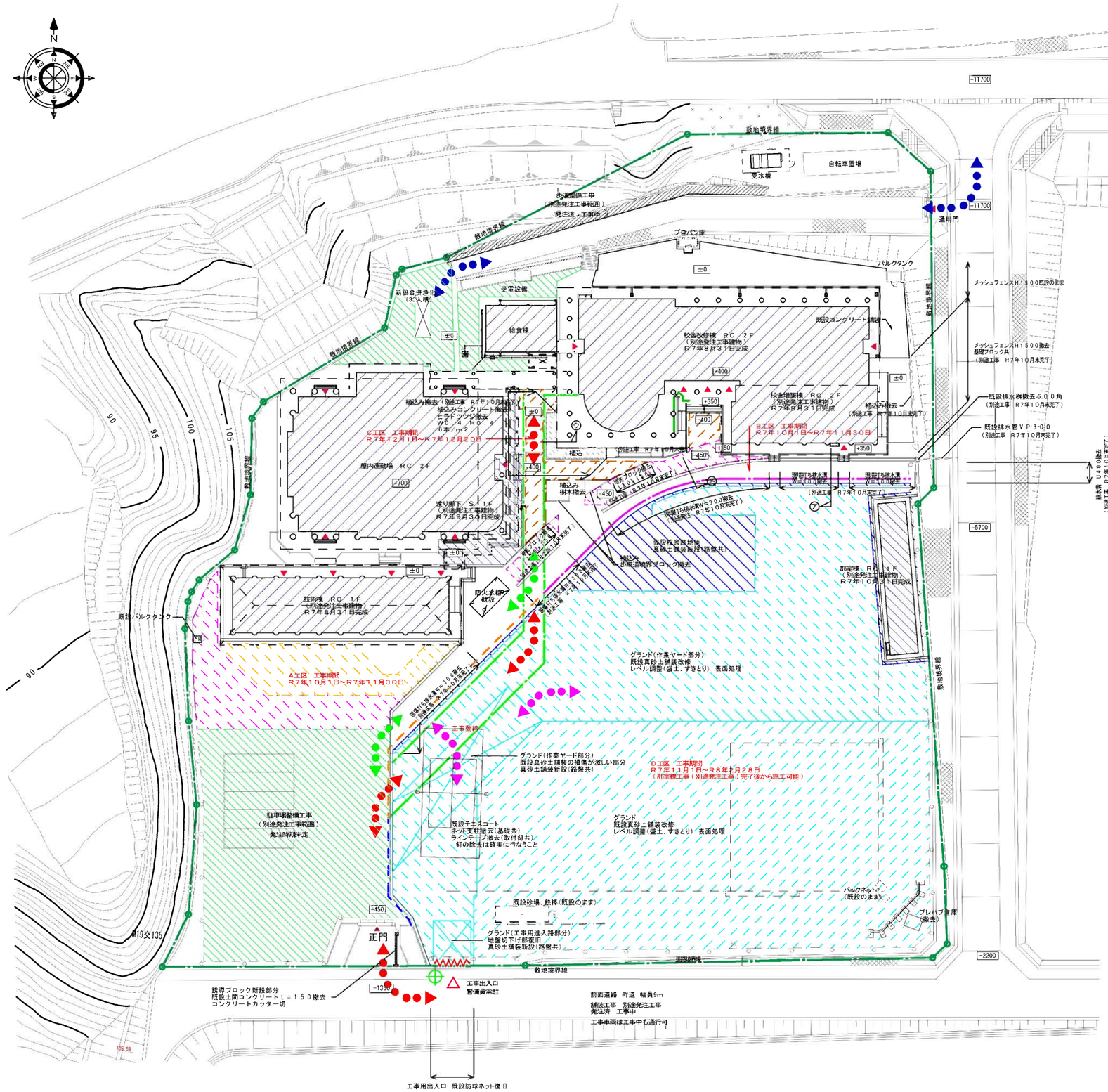
① 路床の構成及び仕上り (22.2.2)	２節　路床 路床の遮断層、凍上抑制層の適用及び厚さ　※図示による 透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ　※図示による 路床安定処理　・行う　・行わない 方法　※図示による	
2 材料 (22.2.3)	盛土の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 遮断層に用いる材料　※図示による 凍上抑制層及び透水性舗装のフィルター層に用いる材料　※図示による 砂の粒度試験　・行う　・行わない 路床安定処理用添加材料の種類　※図示による ジオテキスタイルの適用及び品質　※図示による	
3 試験 (22.2.5)	路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない 路床締固め度の試験　・行う　・行わない	
④ 路盤の構成及び仕上り (22.3.2)	３節　路盤 路盤の厚さ　※図示による	
⑤ 材料 (22.3.3)	路盤材料の種別、品質等　・図示による	
⑥ 舗装の構成及び仕上り (22.4.2)	アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示による 舗装の平たん性　・図示による	
7 配合その他 (22.4.4)	加熱アスファルト混合物等の適用　※図示による	
8 施工 (22.4.5)	シールコートの施工　・行う　・行わない	
⑨ 試験 (22.4.6)	アスファルト混合物等の抽出試験　◯行う　・行わない	
10 舗装の構成及び仕上り (22.5.2)	５節　コンクリート舗装 コンクリート舗装等の構成及び厚さ　・図示による 路本地の縁部立下り寸法等　※図示による	
11 材料 (22.5.3)	コンクリートの設計基準強度、スランプ及び粗骨材の最大寸法 舗装コンクリート　・図示による 転圧コンクリート舗装　※図示による 注入目地材料の種別　・図示による	
12 施工 (22.5.4)	転圧コンクリート舗装の工法　※図示による コンクリート版の目地の種類及び間隔　・図示による 目地の構造　・図示による	
13 試験 (22.5.6)	コンクリート版の厚さのコア抜き試験　・行う　・行わない	
14 舗装の構成及び仕上り (22.6.2)	６節　カラー舗装 カラー舗装の構成及び厚さ　※図示による 結合材による種類及び骨材の基本的の適用　※図示による 舗装厚さの容量　・図示による 舗装の平たん性　・図示による	
15 材料 (22.6.3)	カラー舗装に添加する着色骨材又は自然石　※図示による	
16 配合その他 (22.6.4)	樹脂系混合物、ニート工法及び塗布工法の配合その他　※図示による	
17 舗装の構成及び仕上り (22.7.2)	７節　透水性アスファルト舗装 舗装の厚さ　※図示による 舗装の平たん性　・図示による	
18 舗装の構成及び仕上り (22.8.2)	８節　排水性アスファルト舗装 舗装の構成及び厚さ　※図示による	
⑲ 舗装の構成及び仕上り、材料 (22.9.2) (22.9.3)	９節　ブロック系舗装 コンクリート平板舗装 目地材　※砂　・モルタル 平板の種類及び寸法　・図示による インターロッキングブロック舗装 種類、形状、寸法、表面加工等　・図示による 舗石 石材の種類、形状及び寸法　※図示による ジオテキスタイルの適用及び品質　※図示による 仕上り面の平たん性　・図示による 10節　砂利敷き	
20 材料 (22.10.2)	砂利敷きの種別　・図示による	

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等 (23.1.3)	１節　一般事項 土壌の水素イオン濃度（ｐＨ）、水溶性塩類（ＥＣ）等の試験 ・行う　・行わない	
2 植栽基盤一般 (23.2.2)	２節　植栽基盤 植栽基盤整備　・行う　・行わない 有効土層整備措置　※図示による 有効土層厚保確さ　・図示による 植栽基盤に浸透した雨水を排水するための傾きｔ等　※図示による 植栽基盤整備工法の種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 土壌改良材　・使用する　・使用しない	
3 材料 (23.3.2)	植込み用土の適用　※図示による 土壌改良材の種類　※図示による	
4 材料 (23.3.2)	３節　植樹 樹木の規種、寸法等　※図示による 株立数　※図示による 支柱材　※丸太　・その他（　　） 防腐処理の方法　※加圧式防腐処理丸太材　・その他（　　） 根巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら　・こも	
5 新植の工法 (23.3.3)	支柱の形式　※図示による	
6 新植樹木の枯補償 (23.3.4)	枯補償の期間 ※引渡しの日から１年　・その他（　　）	
7 移植樹木の枯腐処理 (23.3.6)	移植樹木の枯腐処置を行う期間 ※引渡しの日から１年　・その他（　　）	
8 材料 (23.4.2)	４節　芝張り、吹付けは種及び地被類 芝の種類　※コウライシバの縞　・ノシバの縞 吹付けは種用種子の種類及び量　※図示による 地被類の枯種等　※図示による	
9 芝張りの工法 (23.4.3)	芝張り　・図示による	
10 芝張り、吹付けは種及び地被類の枯補償 (23.4.7)	枯補償の期間 ※引渡しの日から１年　・その他（　　）	
11 植栽基盤 (23.5.2)	５節　屋上緑化 屋上緑化システムの土壌厚の厚さ　※図示による	
12 材料 (23.5.3)	樹木帽　・軽量骨材　・板状成形品 軽量骨材の層の厚さ　※図示による 土壌厚の補込み用土　・人工軽量土　※改良土 樹木、芝及び地被類の規種又は種類、寸法等　※図示による 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示による	
13 工法 (23.5.4)	風圧力に対応した固定方法　※図示による 支柱の設置及び形式　※図示による かんがい設置の設置及び種類　※図示による	
14 新植樹木、芝及び地被類の枯補償 (23.5.5)	新植樹木の枯補償の期間　※引渡しの日から１年　・その他（　　） 芝張り等の枯補償の期間　※引渡しの日から１年　・その他（　　）	

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE	DRAWING. No.
図面名	特記仕様書（３）	SCALE	FREE(A1) FREE(A3) A / 03

ARCHITECTURAL DESIGN FIRM
株式会社 岡本設計
一級建築士 岡本浩一
登録番号234400



仮設計画配置図　凡例

- 既存建物及び別途発注による増改修工事完了建物
- 工事施工中の渡り廊下及び部室（別途発注工事）
- グランド（別途発注工事の作業ヤード部分）
既設真砂土舗装改修
レベル調整（盛土、すきとり）　表面処理
- グランド
既設真砂土舗装改修
レベル調整（盛土、すきとり）　表面処理
- グランド（仮設校舎撤去部分他）
真砂土舗装ｔ１００　砕石路盤ｔ１００新設　表面処理共
- 既設アスファルト舗装ｔ４０撤去＋砕石路盤表層ｔ１０すきとり
（施工前にレベル確認を行ない水勾配を確認の上、嵩上げが必要な場所は表層のみ撤去
- 既設アスファルト舗装ｔ４０撤去＋すきとりｔ１６０～ｔ２６０程度
（施工前にレベル確認を行ない、技術棟排水溝への水勾配を現場調整する事。
- 既設インターロッキング舗装ｔ６０撤去　敷き砂、路盤砕石は既設流用
- 給食関係者車両通行経路
（Ｒ７年１０月１日～Ｒ７年１１月３０日）　通行経路の工事は行なわない
（別途発注工事等の状況により変更の必要がある場合は現場協議による
- 給食関係者車両通行経路
（Ｒ７年１１月３０日～Ｒ７年１２月２０日）　通行経路は土日に工事を行なう
（別途発注工事等の状況により変更の必要がある場合は現場協議による
- 給食関係者車両通行経路
（Ｒ７年１２月２０日～Ｒ８年２月２８日）
（別途発注工事等の状況により変更の必要がある場合は現場協議による
- 工事車両通行経路
- 舗装工事範囲
（別途発注工事）を示す
- キャスターゲート　（Ｗ６．０ｍｘＨ２．０ｍ）ヲ示ス
- 工事車両進入口
- 工事出入口　交通誘導員
- 工事用仮囲い　フェンスバリケード（Ｈ＝１．８ｍ）ヲ示ス（延長１７９ｍ）
（Ｒ７年１０月１日～Ｒ７年１１月３０日　２ヶ月）
- 工事用仮囲い　フェンスバリケード（Ｈ＝１．８ｍ）ヲ示ス（延長２１ｍ）
（Ｒ７年１０月１日～Ｒ８年２月２８日　５ヶ月）
- 工事用仮囲い　フェンスバリケード（Ｈ＝１．８ｍ）ヲ示ス（延長７６ｍ）
（Ｒ７年１１月１日～Ｒ８年２月２８日　４ヶ月）
- 工事用仮囲い　フェンスバリケード（Ｈ＝１．８ｍ）ヲ示ス（延長５４ｍ）
（Ｒ７年１１月３０日～Ｒ８年２月２８日　３ヶ月）

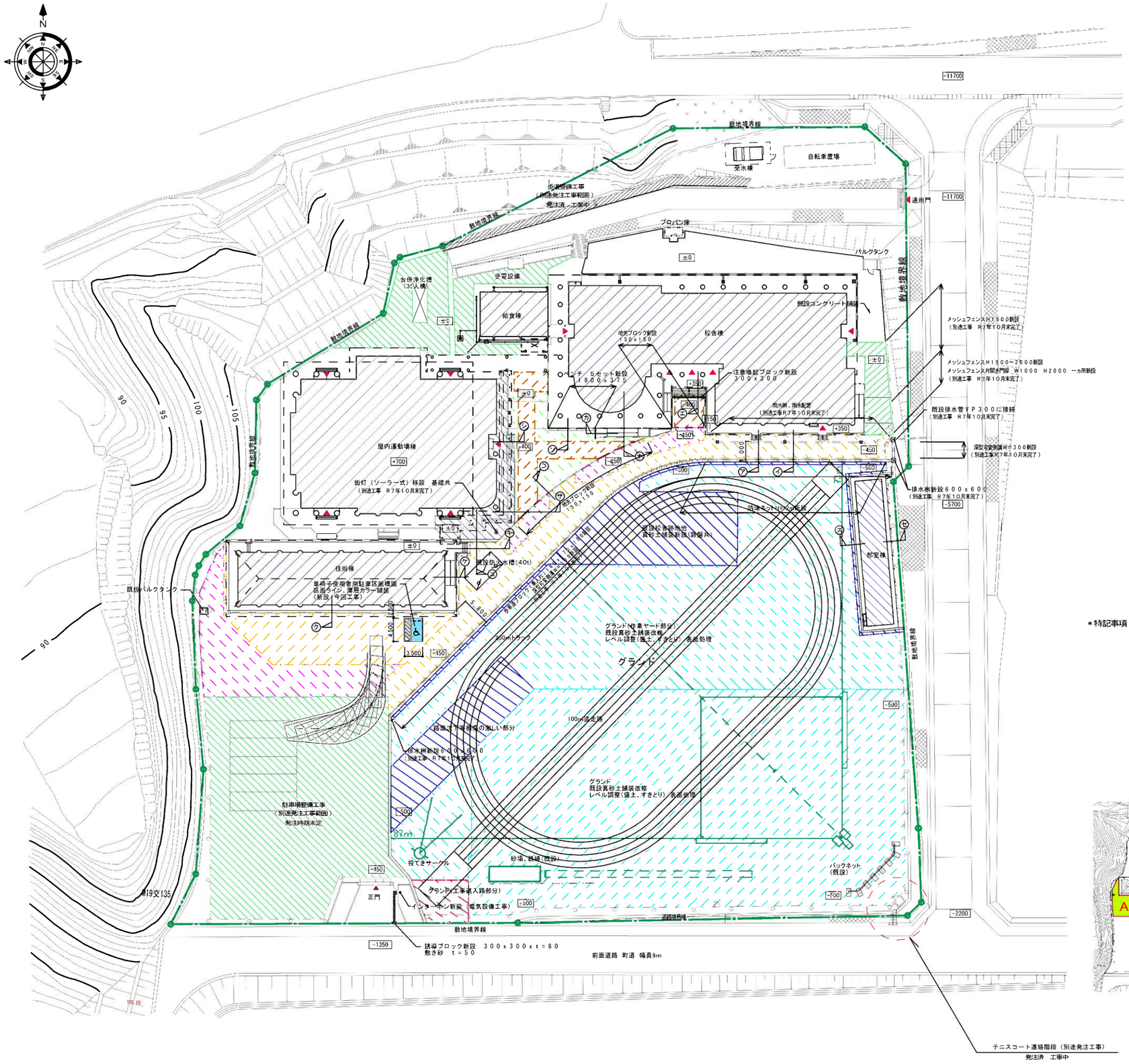
＊特記事項　　図示の仕上レベルはおおよその参考値とし、既設物のレベル確認の上、監督員の承諾を得て施行高さを決定すること。

付近取り図

学校運営は三学期より開始

給食搬送車の経路及び時期は、他工事の進捗状況及び運営上変更される場合があります。

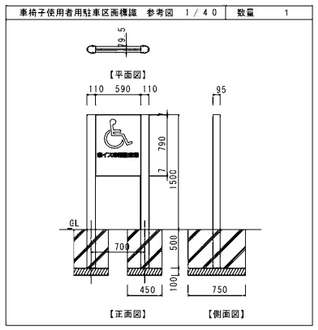
工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING No.
図面名	現況配置図	SCALE	1：400［A1］ 1：800［A3］	A / 04
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号２３４４００			



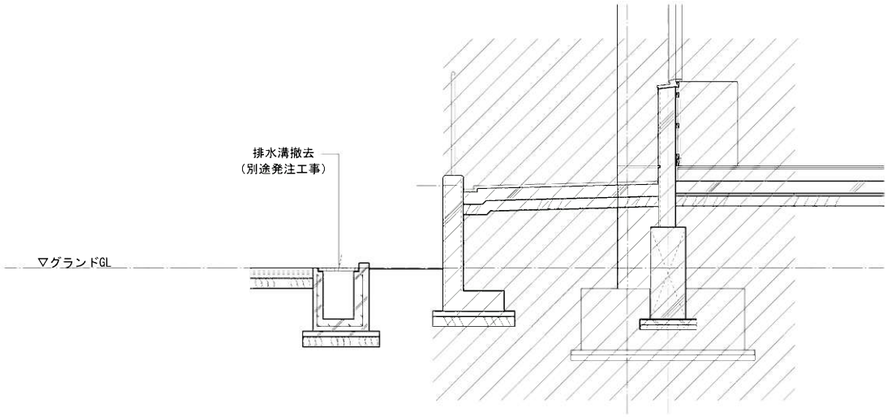
仮設計画配置図　凡例

- 既存建物及び別途発注による増改修工事完了建物
- 工事施工中の渡り廊下及び部室（別途発注工事）
- グランド（作業ヤード部分）
既設真砂土舗装改修
レベル調整（盛土、すきとり） 表面処理
- グランド
既設真砂土舗装改修
レベル調整（盛土、すきとり） 表面処理
- グランド（仮設校舎撤去部分他）、路面沈下等損傷の激しい部分
真砂土舗装ｔ１００　砕石路盤ｔ１００新設　表面処理共
- アスファルト舗装ｔ５０新設　既設砕石路盤ｔ１４０不陸整正転圧のうえ再利用
既設アスファルト舗装ｔ４０撤去＋砕石路盤表層ｔ１０すきとり
（施工前にレベル確認を行ない水勾配を確認の上、嵩上げが必要な場所は砕石路盤で調整
- アスファルト舗装ｔ５０　砕石路盤ｔ１５０新設
すきとりｔ１８０
- アスファルト舗装ｔ５０　砕石路盤ｔ１５０新設
すきとりｔ１６０～ｔ２６０
- インターロッキング舗装ｔ６０新設　既設敷き砂不陸整正転圧のうえ再利用
既設インターロッキング舗装ｔ６０撤去
（施工前にレベル確認を行ない水勾配を確認の上、嵩上げが必要な場所は敷き砂で調整
- インターロッキング舗装ｔ６０新設　砕石路盤ｔ１５０　敷き砂ｔ３０
- コンクリート舗装ｔ１５０　砕石路盤ｔ１００新設
（別途工事　Ｒ７年１０月末完了）
- グランド（工事進入路部分）
盛土、レベル調整、真砂土舗装ｔ１００　砕石路盤ｔ１００新設　表面処理共
- 舗装工事範囲
（別途発注工事）を示す

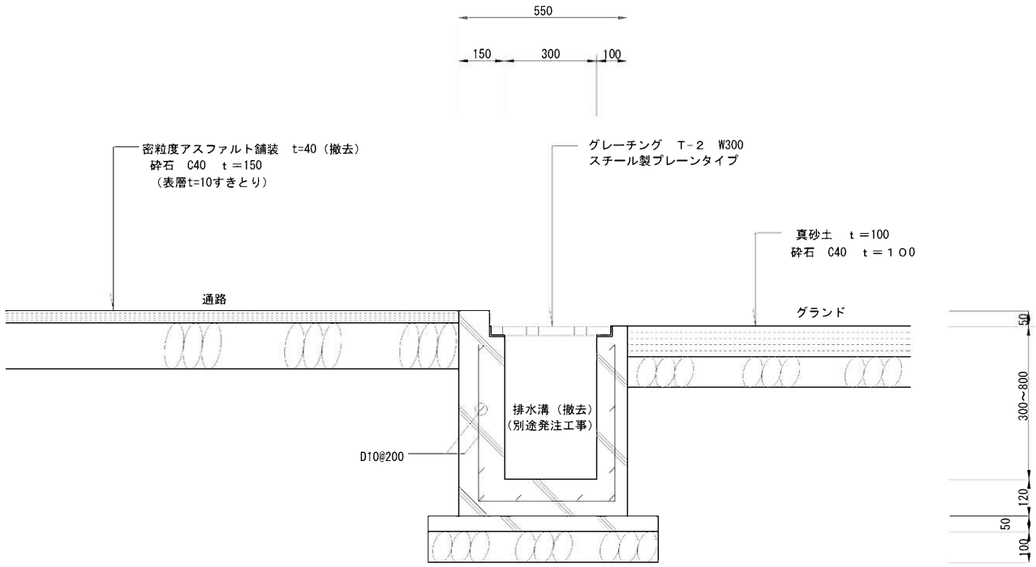
＊特記事項　　図示の仕上レベルはおおよその参考値とし、既設物のレベル確認の上、監督員の承諾を得て施行高さを決定すること。



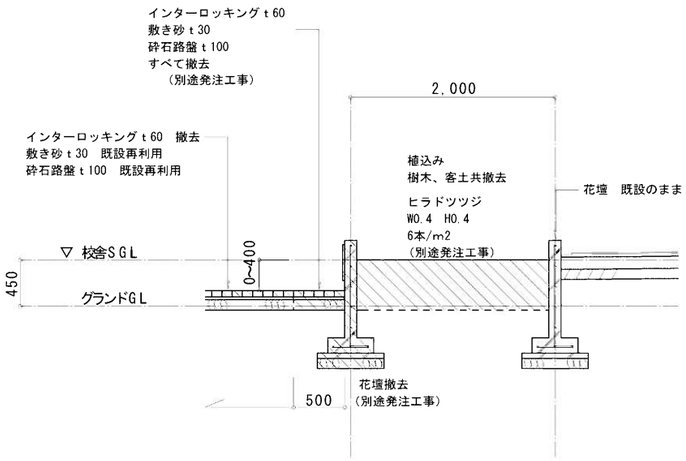
工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING No.
図面名	完成配置図	SCALE	1：400［A1］ 1：800［A3］	A／05
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号23400			



Ⓐ - Ⓐ 断面



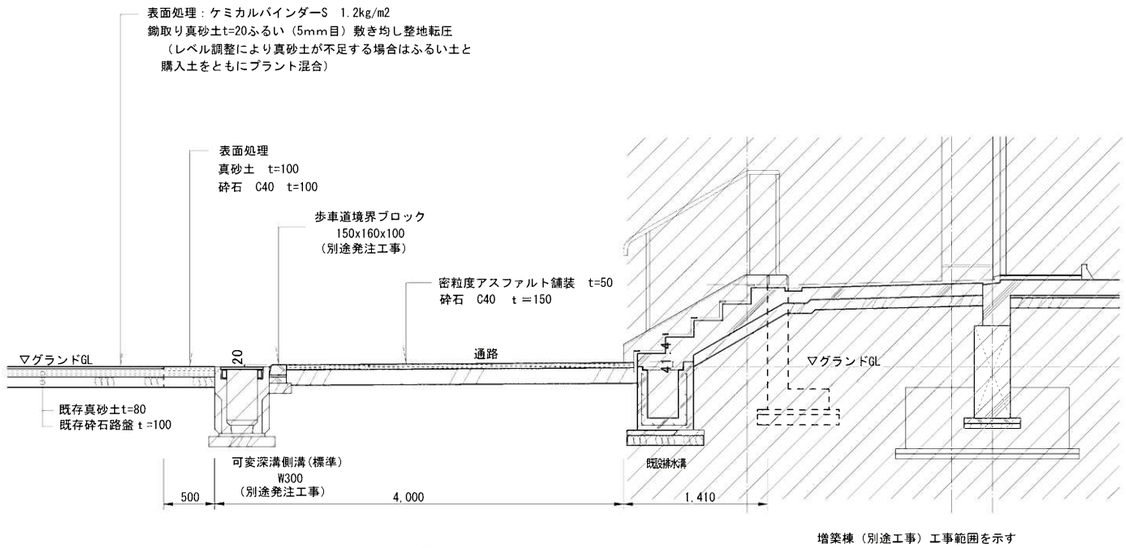
Ⓘ - Ⓘ 断面



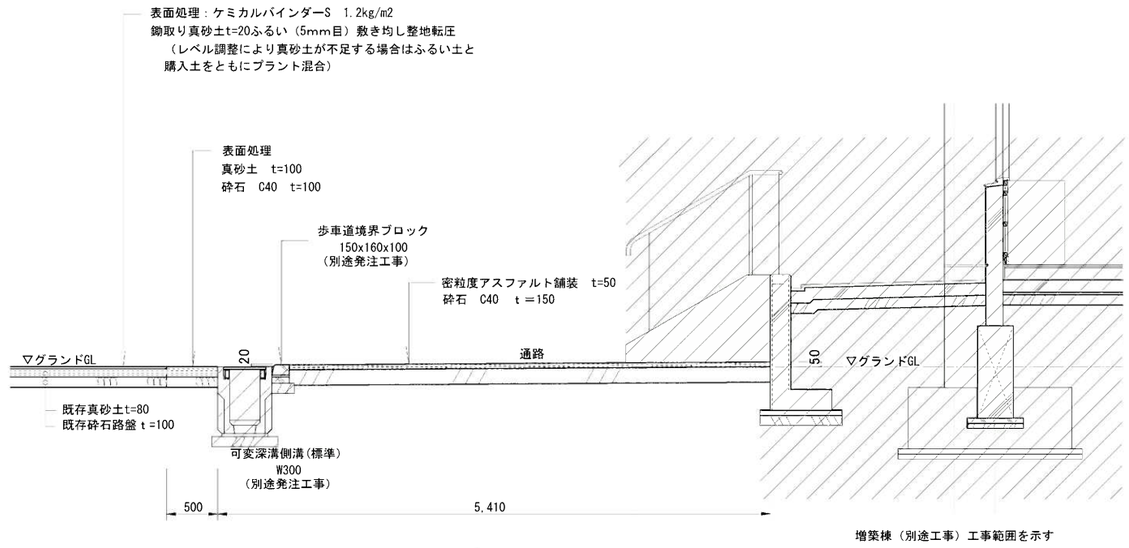
Ⓤ - Ⓤ 断面

*特記事項　　図示の仕上レベルはおおよその参考値とし、既設物のレベル確認の上、監督員の承諾を得て施行高さを決定すること。

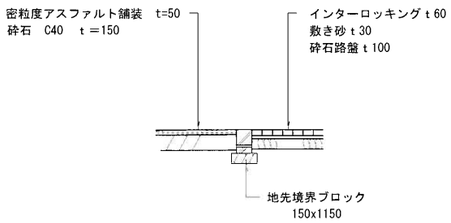
工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING No. A/06
図面名	部分詳細図（現況）	SCALE	1:30(A1) 1:60(A3)	
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計 一級建築士 岡本浩一 登録番号234400				



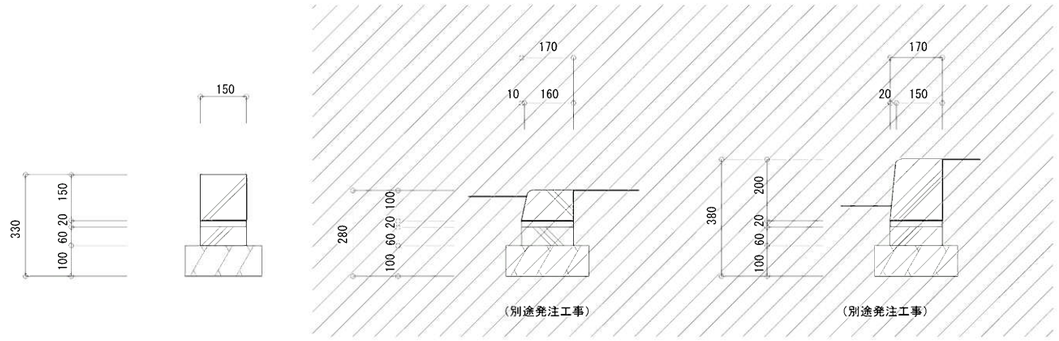
㋐ - ㋐ 断面



㋑ - ㋑ 断面



㋒ - ㋒ 断面

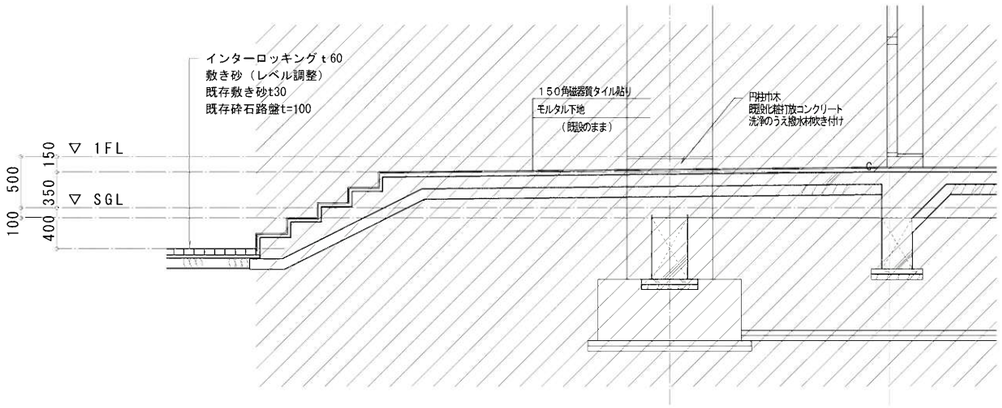


境界ブロック詳細図　1：10

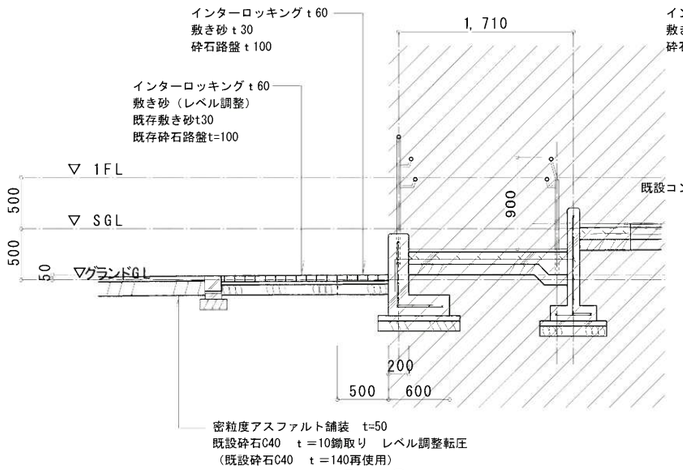
*特記事項　　図示の仕上レベルはおおよその参考値とし、既設物のレベル確認の上、監督員の承諾を得て施行高さを決定すること。

既設及び別途発注工事範囲（本工事外）を示す

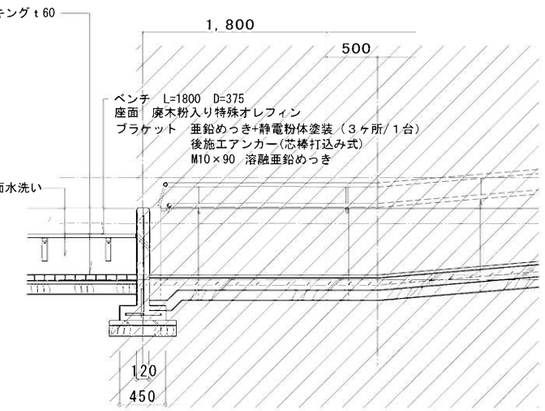
工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING No.
図面名	部分詳細図（改修）－1	SCALE	1：30（A1） 1：60（A3）	A／07
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計 一級建築士 岡本浩一 登録番号234400				



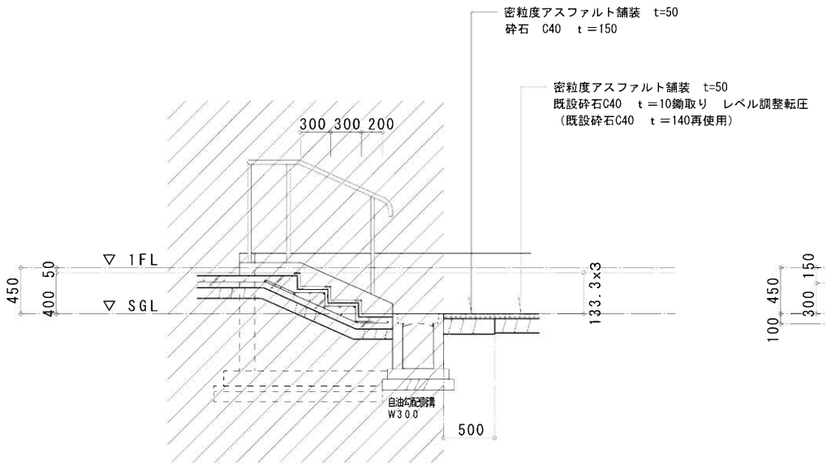
㋓ － ㋓ 断面



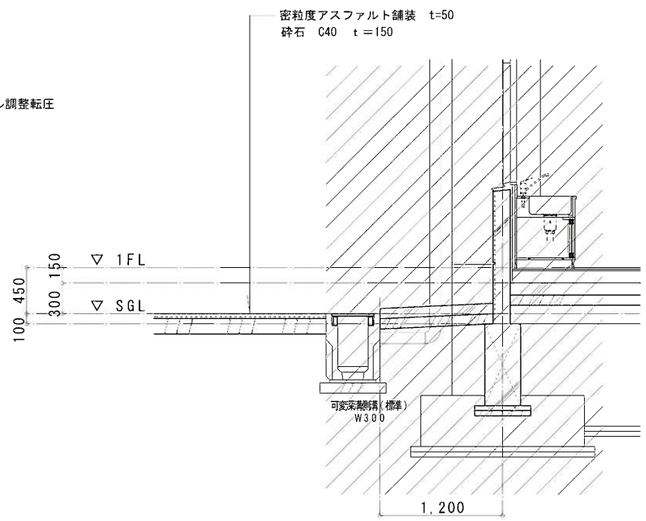
㋔ － ㋔ 断面



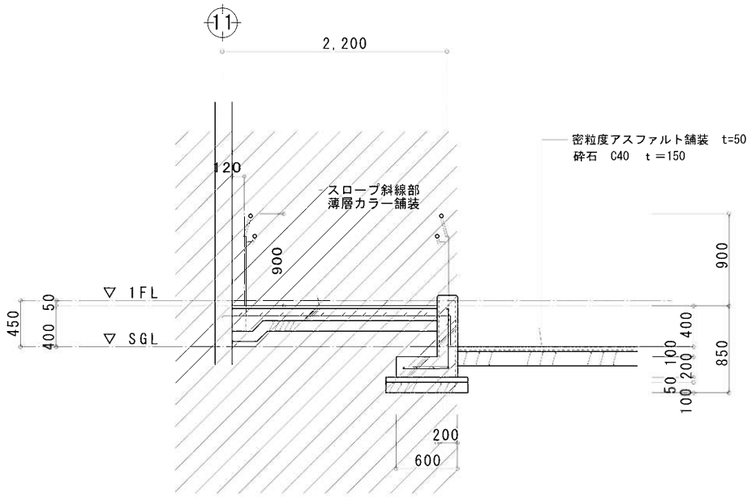
㋕ － ㋕ 断面



㋖ － ㋖ 断面



㋗ － ㋗ 断面

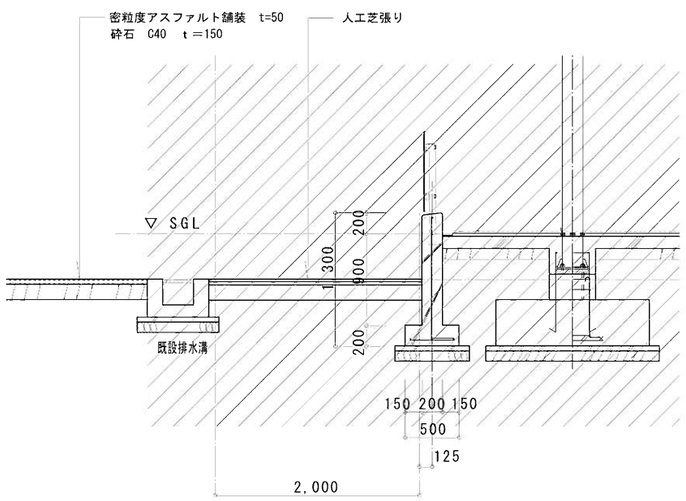


㋘ － ㋘ 断面

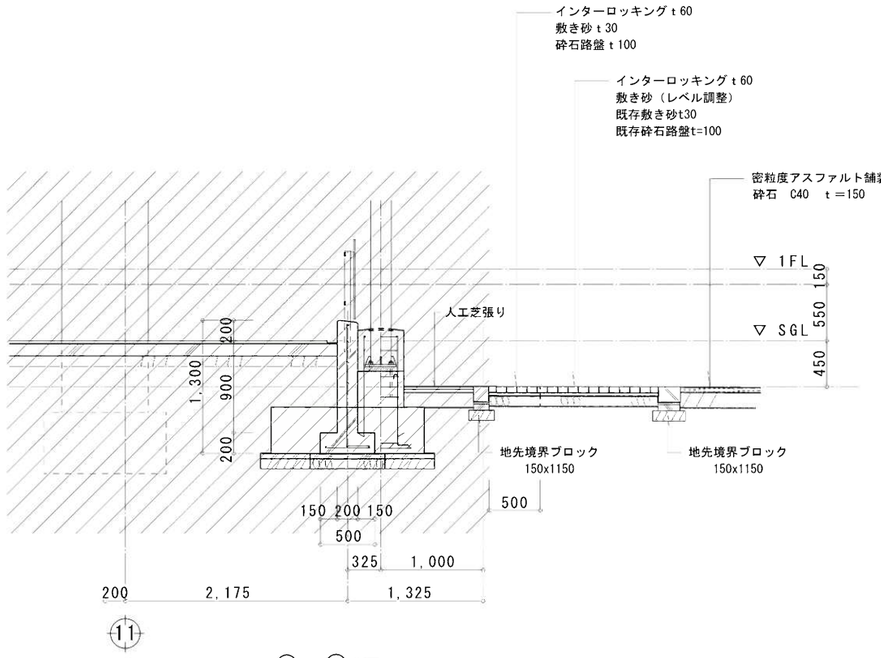
*特記事項　　図示の仕上レベルはおおよその参考値とし、既設物のレベル確認の上、監督員の承諾を得て施行高さを決定すること。

既設及び別途発注工事範囲（本工事外）を示す

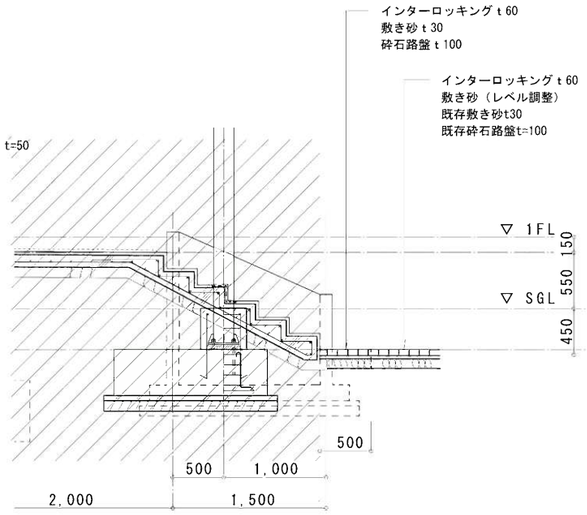
工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING No. A／08
図面名	部分詳細図（改修）－２	SCALE	1：30（A1） 1：60（A3）	
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計 一級建築士 岡本浩一 登録番号234400				



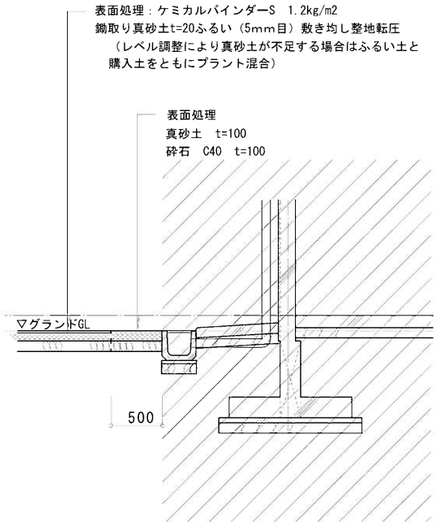
㋓ － ㋓ 断面



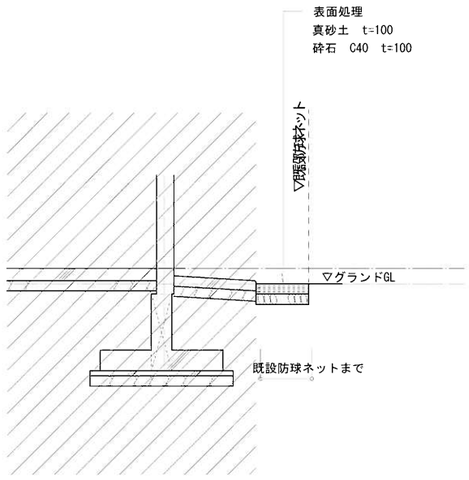
㋚ － ㋚ 断面



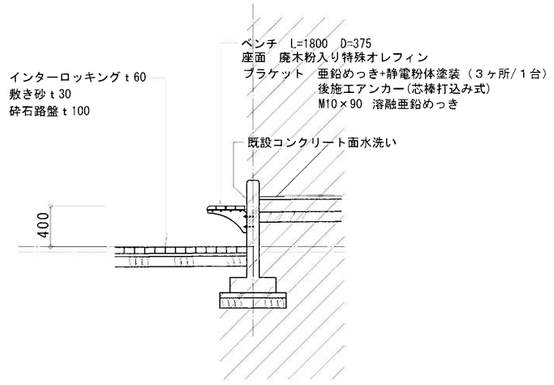
㋛ － ㋛ 断面



㋜ － ㋜ 断面

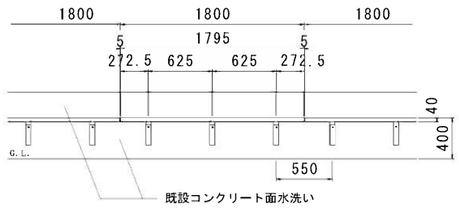


㋝ － ㋝ 断面

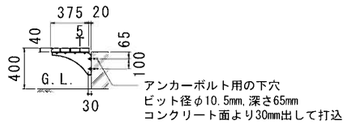


㋞ － ㋞ 断面

平面図(S=1/30)



正面図(S=1/30)



側面図(S=1/30)

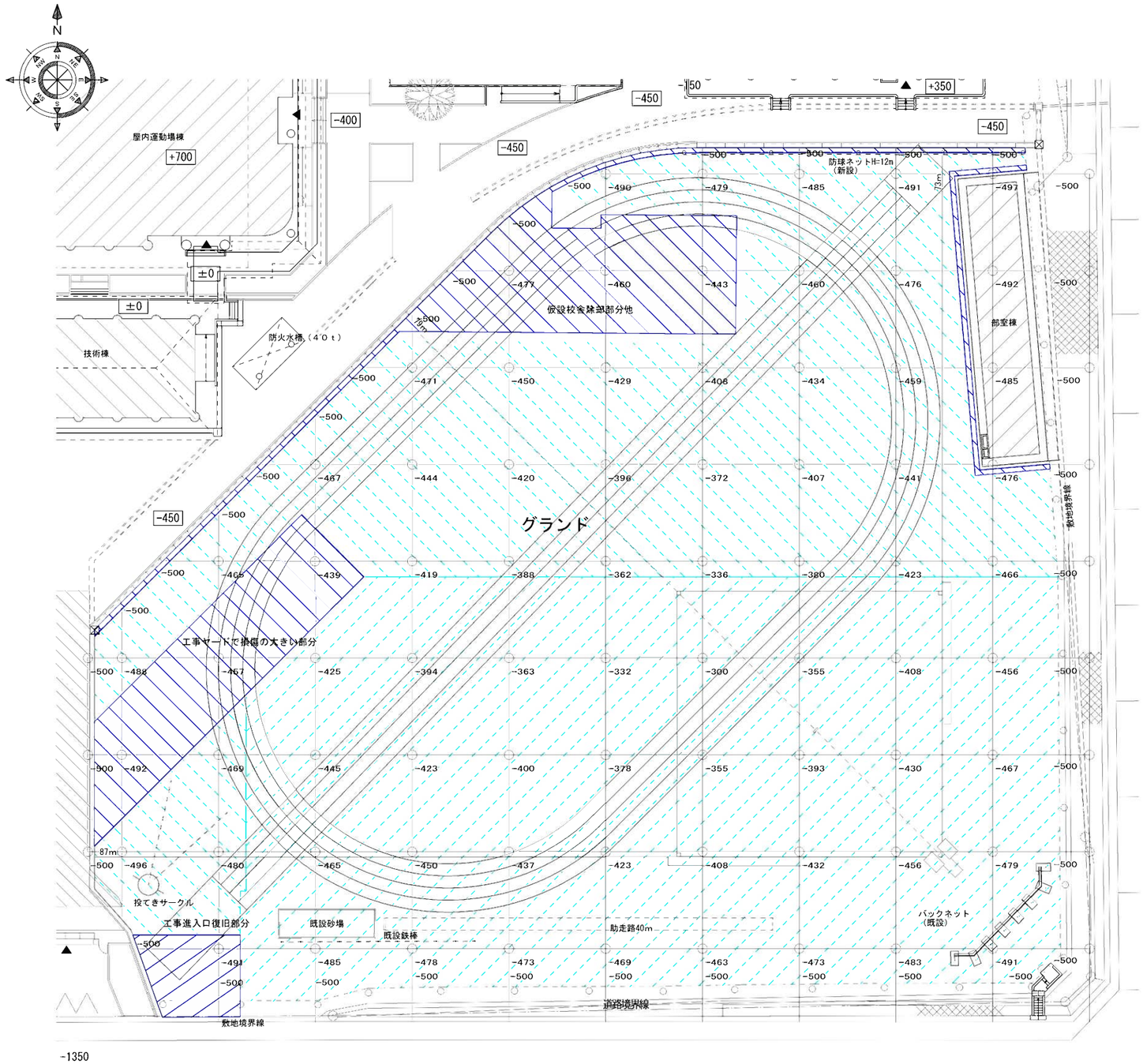
参考品番　積水　オレンジウッドE　スタジアムベンチ
KF-OWEB-SL418

ベンチ詳細図

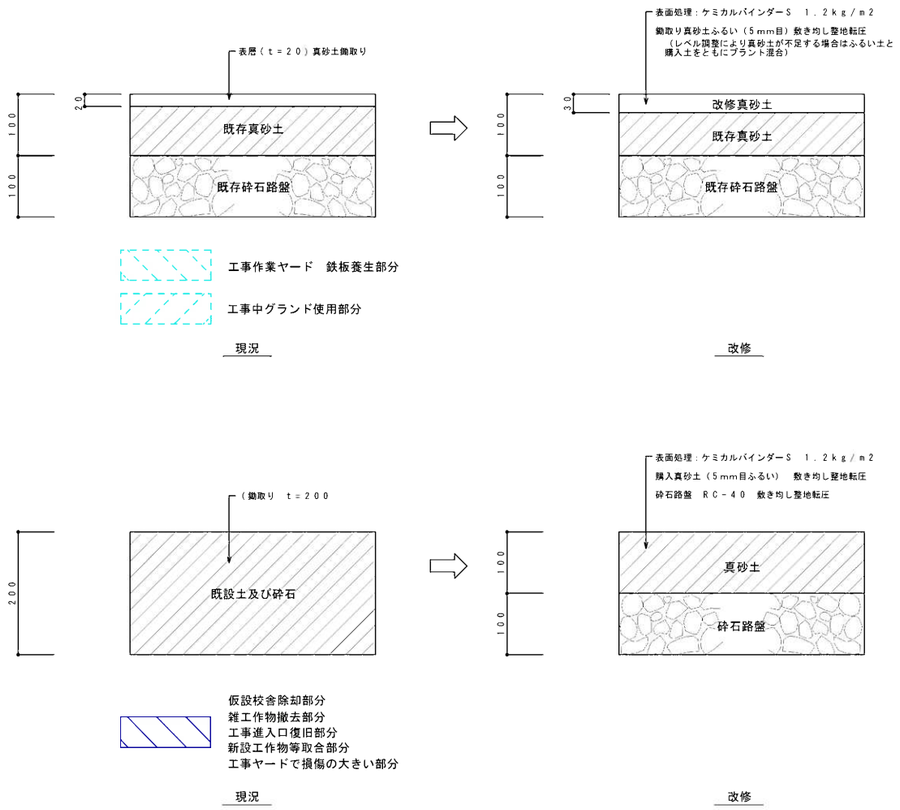
*特記事項　　図示の仕上レベルはおおよその参考値とし、既設物のレベル確認の上、監督員の承諾を得て施行高さを決定すること。

既設及び別途発注工事範囲（本工事外）を示す

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING No.
図面名	部分詳細図（改修）－３	SCALE	1:30(A1) 1:60(A3)	A／09
	ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計 一級建築士 岡本浩一 登録番号234400			



グランド配置計画図　　Ｓ＝１／２５０



路面舗装改修断面図　　Ｓ＝１／５

数　量　表

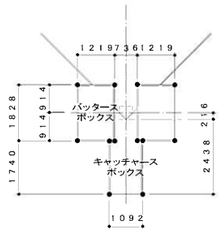
工　　種	数　量	単位
路面舗装改修（真砂土舗装）	６，９８５	ｍ２
ピッチャープレート	１	ヶ所
ホームベース	１	ヶ所
塁間ベース	１	組
ポイントマーク（レヂンポイント） ・野球 ・２００ｍトラック ・１００ｍ直走路	９５	ヶ所
的てきサークル（兼用）	１	ヶ所

特記事項

グランドレベルは元設計図による参考値を示す。

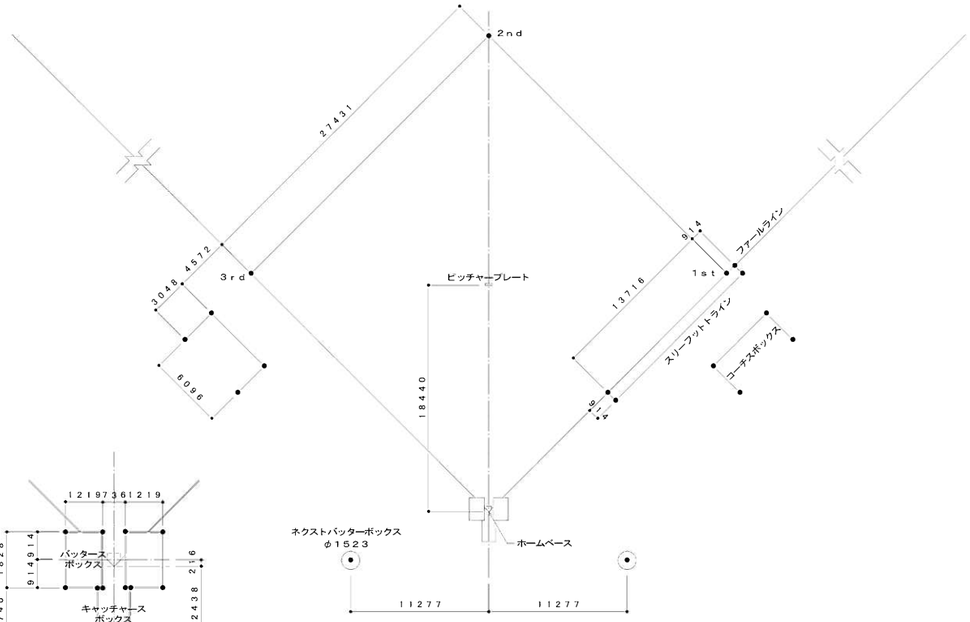
施工前に現地測量を行ない、全体的なグランド勾配計画を作成して、監理者の承諾を受けること。

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING. No. A／10
図面名	グランド詳細図－１	SCALE	１：２５０（A1） １：５００（A3）	
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号２３４４００			



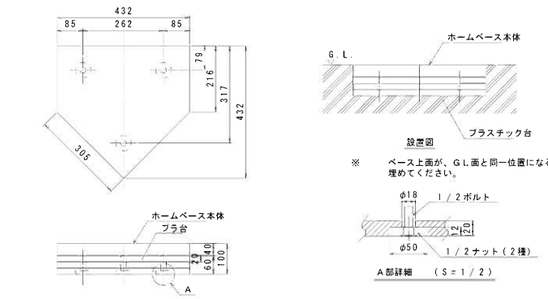
ホームベース部分詳細図　　１：１００

※ポイントマーク：１２ヶ所

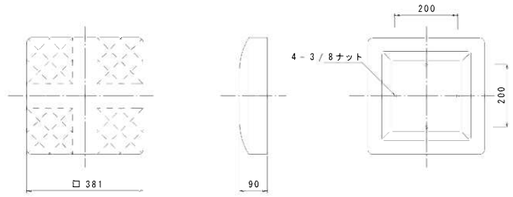


硬式野球内野詳細図　　１：２５０

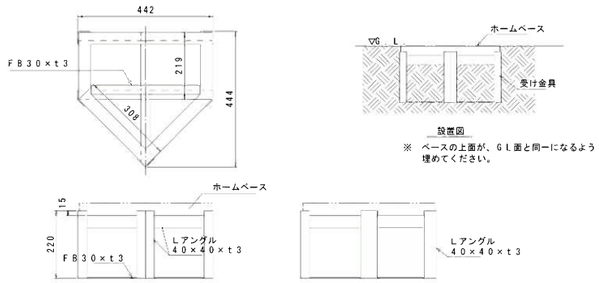
※ポイントマーク：１７ヶ所



No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	固定ボルト		ステンレス製	１／２×Ｌ７０ｍｍ
	プラスチック台		再生プラスチック	黒色
	ホームベース		硬質ゴム	白色

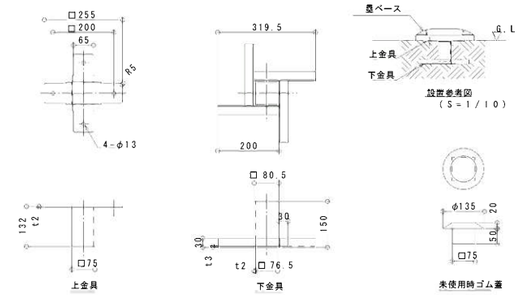


No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	外皮		塩化ビニール	
	中芯材		ウレタンチップモールド	



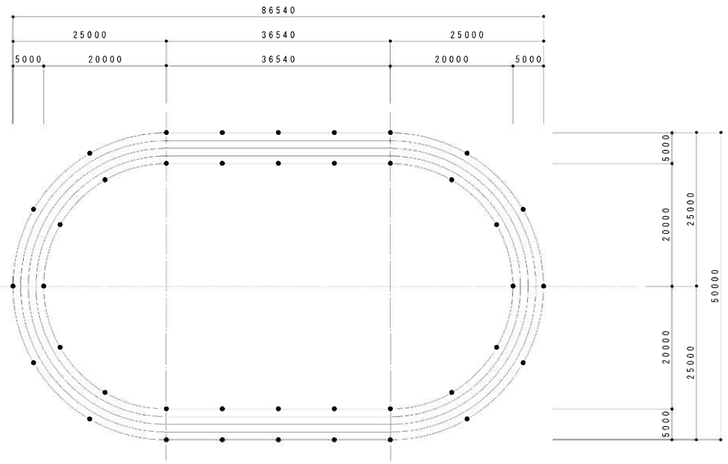
No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	受金具		ステンレス（JIS G4304 SUS304）	酸洗い

ホームベース詳細図　　Ｓ＝１／１０



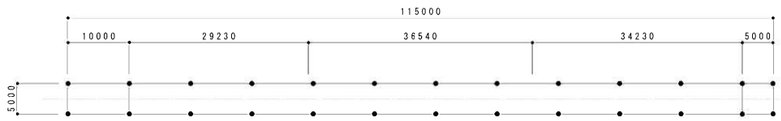
No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	本体		ステンレス製（JIS G4304 SUS304）	
	ゴム蓋		硬質ゴム	赤茶色
	六角ボルト		ステンレス製 ３／８×Ｌ２０ ※１	

墓間ベース詳細図　　Ｓ＝１／１０



２００ｍトラック詳細図　　Ｓ＝１／５００

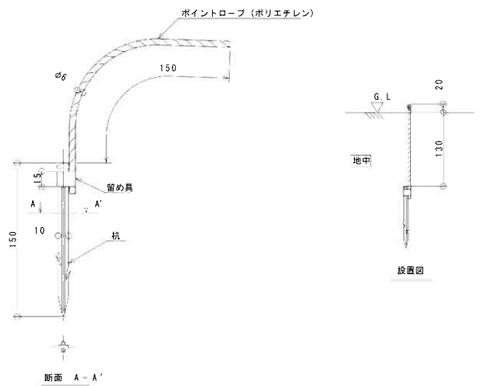
※ポイントマーク：４０ヶ所



１００ｍ直走路詳細図　　Ｓ＝１／５００

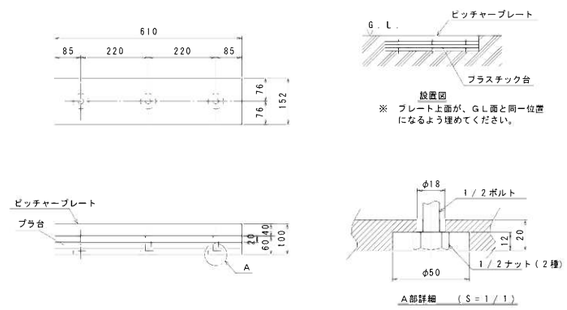
※ポイントマーク：２６ヶ所

ポイントマーク配置図　　各記



No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	ポイントロープ		ポリエチレン　φ６	
	杭本体・留め具		生分解性プラスチック	

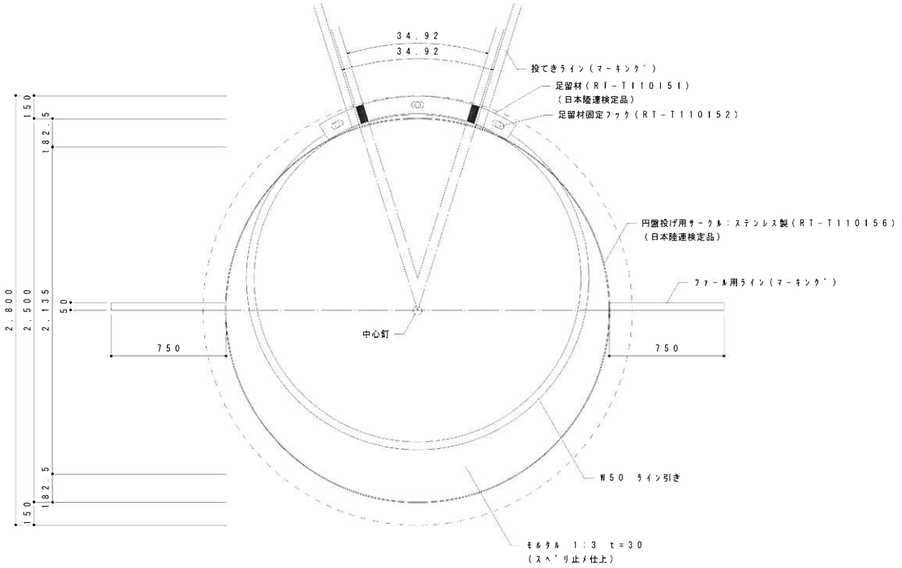
ポイントマーク詳細図　　Ｓ＝１／３



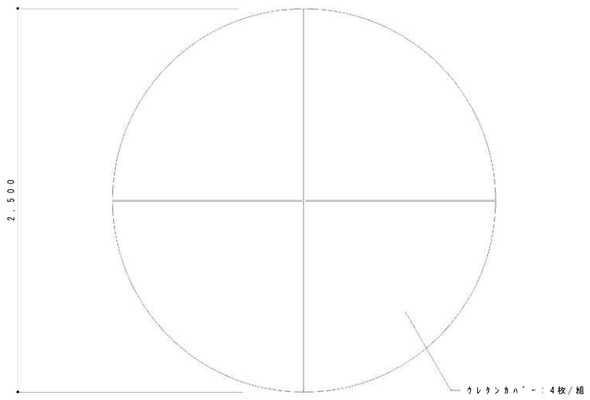
No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	固定ボルト		ステンレス製	１／２×Ｌ７０ｍｍ
	プラスチック台		再生プラスチック	黒色
	ピッチャープレート		硬質ゴム	白色

ピッチャープレート詳細図　　Ｓ＝１／１０

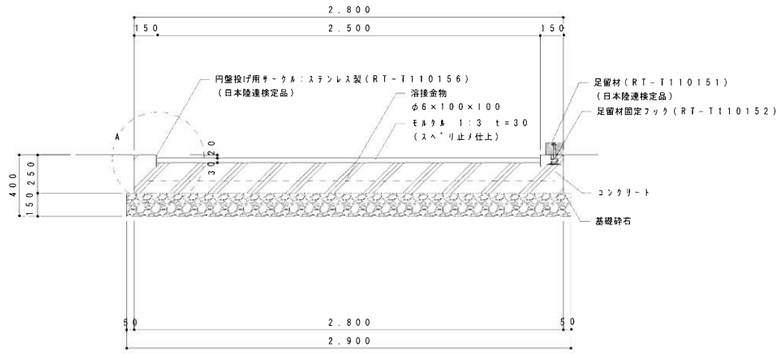
工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外付帯工事）	DATE		DRAWING. No. A／11
図面名	グランド詳細図－２	SCALE	図示	
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号２３４４００			



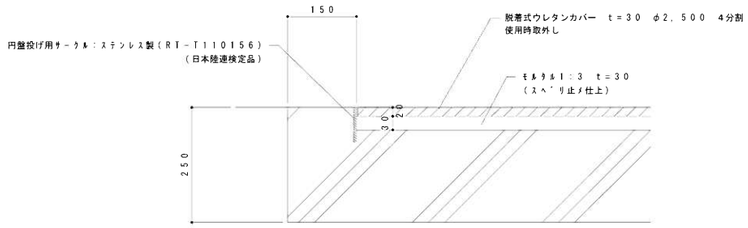
兼用サークル平面図　S＝1／30



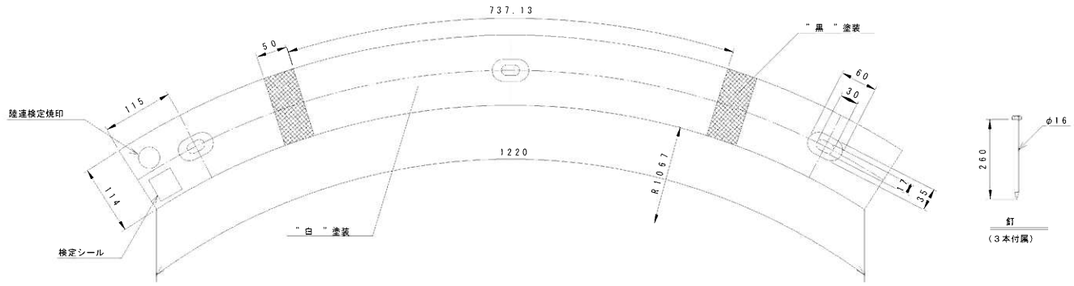
サークルカバー平面図　S＝1／30



兼用サークル断面図　S＝1／30



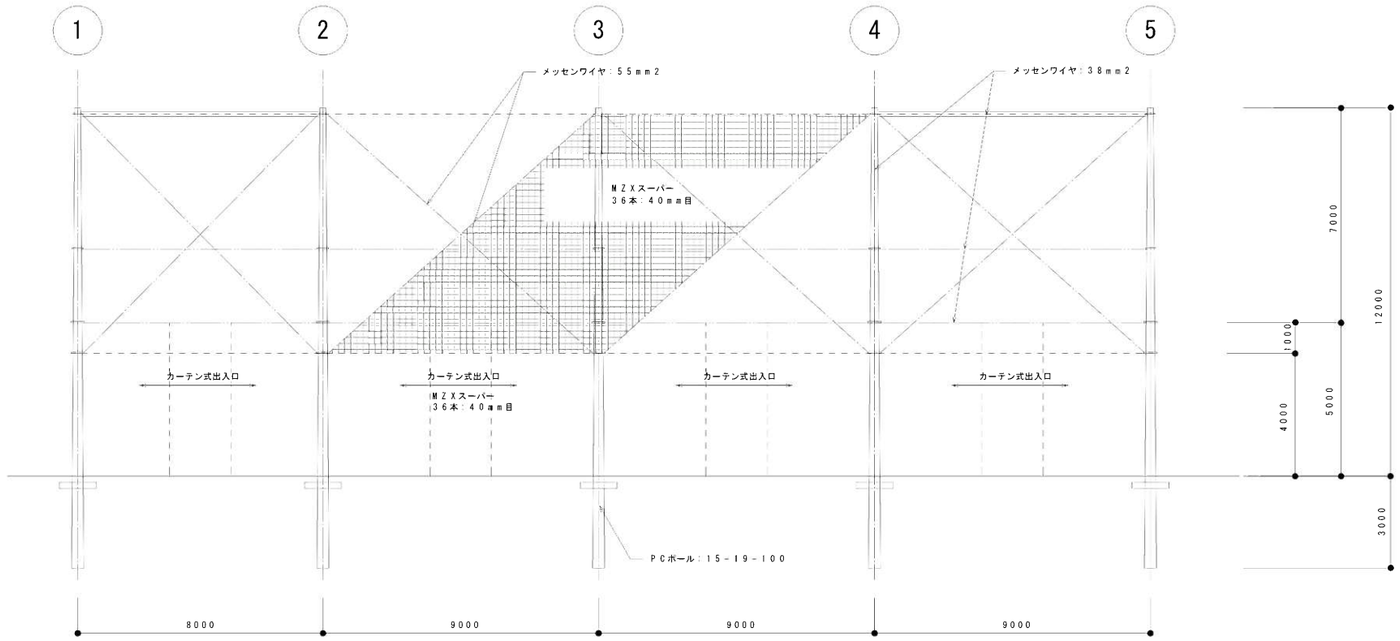
A部詳細図　S＝1／10



No.	名　称	個数	材　質・寸　法	仕上・備考
	本体		木製	塗装
	釘	3	鉄製	電気亜鉛メッキ

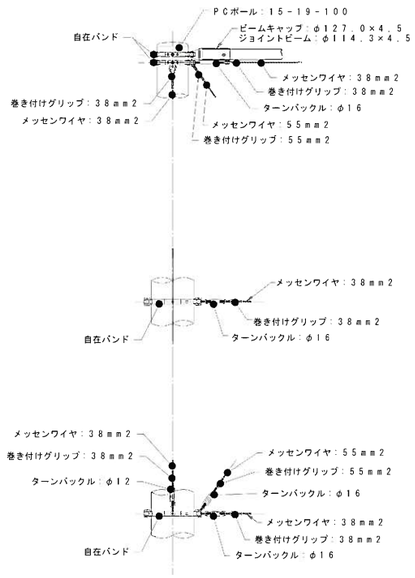
足留器検定品　S＝1／5

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE		DRAWING. No. A／12
図面名	グランド詳細図－3	SCALE	図示	
ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号23400			

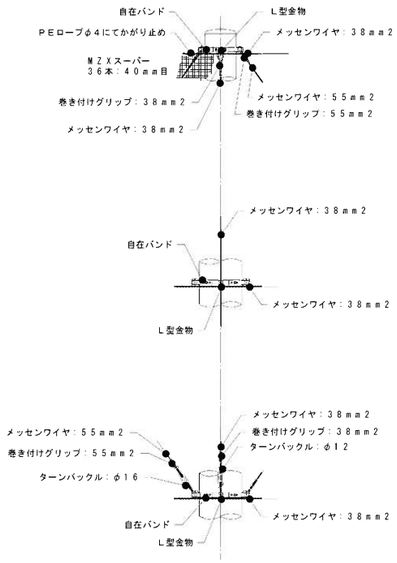


防球ネット展開図　　Ｓ＝１／１００

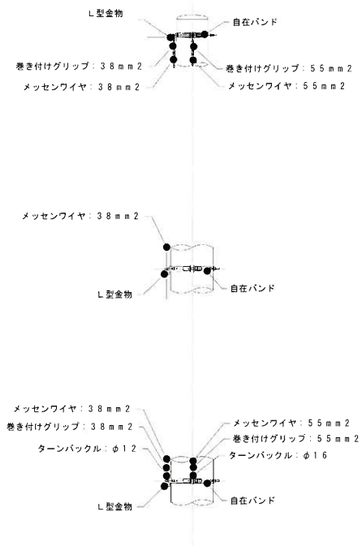
注１）※印はジョイントビーム（φ１１４．３×４．５）の設置箇所を示す。
注２）設置場所は岩盤となるため、岩盤掘削用機械を使用すること。



端部正面図



中間部正面図



側面図

取付金具詳細図　　Ｓ＝Ｆｒｅｅ

工事名	早蘇中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）	DATE	DRAWING. No. A／13
図面名	グランド詳細図－３	SCALE 1：100(A1) 1：200(A3)	
OKAMOTO ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計 一級建築士 岡本浩一 登録番号２３４４００			

電気設備工事特記仕様書

最終改訂：令和５年４月１日

Ⅰ 工事概要

1. 工事年度及番号　　令和　　年度　　営　　第　　号
2. 工事名　　早蕨中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）電気設備工事
3. 工事場所　　和歌山県日高郡日高川町蛇尾地内
4. 建物概要　　構造：　　階数：　　延面積：　　㎡
5. 工事内容

Ⅱ 電気設備工事仕様

1. 図面及び特記仕様に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和４年版）及び同監修公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和４年版）（以下「標準仕様書」という。）及び同監修公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和４年版）による。
2. 特記事項は○印のついたものを適用し、○印のない場合は※印のあるものを適用する。
3. 取消線で打ち消した部分については適用しない。

一般共通事項

章	項目	特記事項
一般共通事項	1 適用範囲	※設計図書の優先順位は、質問回答書、現場説明書、特記仕様書、図面、標準仕様書の順とする。
	2 官公署その他への届出手続等	※工事の着手、施工、完成に当たり、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等は遅延なく行い、その費用は全て受注者の負担とする。
	3 工事実績情報の登録	※登録する（ただし、工事請負額が500万円未満の工事については不要）
	4 書類の書式等	施工体制台帳及び施工体系図 ※作成する
	5 別契約の関連工事	※別契約の施工上密接に関連する工事については、監督員の調整に協力し、当該工事関係者とともに、工事全体の円滑な施工に努める。

他工事との取り合い

工事内容		本工事	別途工事	
		電気	機械	建築
機器の基礎	・屋内設置（架台、アンカーボルトを除く）	・	・	・
	・屋上設置（架台、アンカーボルトを除く	・	・	・
	・屋外設置（架台、アンカーボルトを除く）	・	・	・
	・架台、アンカーボルト	・	・	・
貫通スリーブ（はり、床、壁）	・スリーブ	・	・	・
	・補強鉄筋	・	・	・
	・スリーブの穴埋め	・	・	・
箱入れ（はり、床、壁）	・箱入れ	・	・	・
	・補強鉄筋	・	・	・
	・型枠の穴埋め	・	・	・
天井、壁の切り込み	・芯出し	・	・	・
	・下地組み、ボード類の切り込み（埋込照明器具、スピーカー等）	・	・	・
開口部補強	・軽量鉄骨天井、壁下地	・	・	・
点検口	パイプスペース等の点検口	・	・	・
	天井点検口	・	・	・
インサート	・インサート	・	・	・
換気扇の取付枠	・換気扇の取付枠	・	・	・
電気配管配線	・機器付属の制御盤及び操作盤以降の配管、配線	・	・	・
	・機器付属の制御盤及び操作盤への電源供給配管、配線	・	・	・
	・天井吊り機器（空調機、空調換気扇）の本体と操作スイッチ間の配管	・	・	・
	・上記の配線	・	・	・
	・パッケージ型空気調和機などで屋内機と屋外機との間の配管	・	・	・
	・上記の配線	・	・	・
	・給湯機器の本体と操作スイッチ間の配管	・	・	・
	・上記の配線	・	・	・
	・電極棒及びフロートスイッチの本体	・	・	・
	・上記の配管、配線	・	・	・
自動制御	・電気配管	・	・	・
	・電気配線	・	・	・
	・電源供給	・	・	・
浄化槽	・操作盤までの1次側電気工事	・	・	・
	・操作盤以降の2次側電気工事	・	・	・
建具類駆動装置	・建具類電動駆動装置の2次配線及び操作スイッチ	・	・	・
	・上記の配管	・	・	・
自動閉鎖装置	・自動閉鎖装置取り付け箇所の切込み及び補強	・	・	・
	・上記の配管、配線	・	・	・

章	項目	特記事項
	6 施工計画書	該当工事着手前に提出
	7 工事の記録	監督職員の指示により、工事着手前、施工中、完成時の工事写真を提出する。 （参考：営繕工事写真撮影要領（令和５年版）・工事写真撮影ガイドブック　電気設備工事編（平成３０年版）） ※デジタル工事写真の小黒板情報電子化の取り扱いは、別紙「工事特記事項（共通編）」による。
	8 施工条件	※別紙「現場説明書」による
	9 PCB使用機器の調査	・要　　・不要
	10 PCB使用機器の保管	特別管理産業廃棄物として事業者にて保管する。保管容器の製作、表示等は本工事とする。
	11 発生材の処理等	発生材の処理は次による。 ・　設計図書による　　・　場外搬出適正処分 発注者に引渡しを要するもの ※図示による 特別管理産業廃棄物 ・有り（外壁吹付タイル）　　・無 発生材のうち、現場において再利用を図るもの及び再資源化を図るもの ※図示による ※受注者は、再生資源利用【促進】計画書（実施書）を作成するものとする。 なお、再生資源利用【促進】計画書は、施工計画書に含めて提出するものとする。 ※作成した再生資源利用【促進】計画書（実施書）は、自社においても保管するものとする。
	12 現場代理人	※現場代理人は、工事現場に常駐すること。 ただし、工事現場において作業等が行われていない期間で発注者との連絡体制が確保されると監督員が認めた場合は常駐を要しない。
	13 技術者等の資格	※建設業法によること
	14 技術検査	・中間技術検査（実施回数：　　回、実施段階：　　）
	15 県産品等の優先使用	「内訳書等」への記載にかかわらず、県産品等の優先使用に努めること。 ※一般資材において、規格・品質が条件を満足するものについては、グリーン購入推進方針における品目の優先使用に努めるものとする。
	16 県内調達に関する事項	事前に監督員と協議のこと
	17 施工図	本工事着工前に施工図作成の上、監督員の承諾を受ける。（使用機材を含む）
	18 完成時の提出図書等	完成図　※製本（原図サイズ）２部、（縮小サイズ）１部、※A4折　３部 施工図　※製本（原図サイズ）２部 ＣＡＤデータの提出　※要（ＪＷＷ形式又はＤＸＦ形式、ＣＤ　１枚）　・不要 保全に関する資料　※提出する（電子データの提出は監督員の指示による）・提出しない 試験成績表　１部 取扱説明書　１部 機器完成図　１部 許認可書類　１部 付属品、予備品リスト　１部 その他
	19 工事完成写真	※提出する（電子データ）　　・提出しない 「7　工事の記録」による完成時の工事写真とは別に、４枚以上撮影し提出する。 撮影箇所は、監督員の指示による。 撮影は、人物やゴミ等の雑物が入らないようにする。 デジタルカメラ等の総画素数は500万画素以上とし、ＣＤ等で提出する。
	20 火災保険	火災保険への加入　※要　　・不要 保険期間　　・着工日から完成工期まで ⊙着工日から完成工期＋１ヶ月まで（引渡し後は、被保険者を日高川町長とする） ・その他（　　） 保険金額　※建設工事請負契約額以上　　・その他（　　）
	21 建設業退職金共済制度	※建設労働者の勤労条件改善のため「建設業退職金共済組合」等に加入すること。 ※共済証紙は金融機関で退職金共済契約者証を提出し、相当額の証紙を購入して、その掛金収納書の一部を契約時に提出すること。なお、余剰証紙がある場合は使用を認めるが、余剰分を使用する場合でも１日分以上購入すること。余剰証紙を使用する場合は掛金収納書の一部と合わせて証紙購入・払出記録簿又はこれに代わるものの写しを提出すること。 ※建設業退職金共済制度に関する掲示については、　別紙「工事特記事項（共通編）」による
	22 部分引渡し	・有　　⊙無
	23 部分使用	・有　　⊙無
	24 再使用機器	取外し再使用機器は、清掃、絶縁測定のうえ取付ける
	25 躯体貫通	コンクリート躯体貫通作業については、事前に鉄筋探査を行い、監督員の承諾を得て作業を行うこと。 （梁貫通は原則行わない。） 探査・鉄筋ヶ所を書面にて　　※提出する　　・提出しない
	26 建設発生土の処理	・場外搬出「建設発生土の処分指定に関する要領」に基づく指定処分場 ・場内処分
	27 埋立て等の不適正処理防止に係る土壌検査	和歌山県建設発生土管理基準に基づく土壌検査 ・要　　・不要
	28 分電盤等の鍵	監督員の指示とする
	29 配管・分電盤等の塗装	・屋外：5Y7/1（グレー色）、屋内：2.5Y9/1（クリーム色）を標準色とする ・監督員の指示による
	30 導入線	入線をしない管路には１．２ｍｍ　以上のビニール被覆鋼線を挿入し、行先表示を付ける
	31 プレート類	・ステンレス　　・合成樹脂　　※新金属
	32 支給品	・有　　・無
	33 あと施工アンカー	性能確認ができる関係資料を施工前に書面にて提出し、監督員の承諾を受ける あと施工アンカーの施工に必要となる技能者 ・あと施工アンカー施工士またはあと施工アンカー主任技士 注）あと施工アンカー施工士及びあと施工アンカー主任技士の施工可能範囲 （第1種施工士）制限なし　（特2種施工士）Ｍ２２以下　（第2種施工士）Ｍ１２以下　（主任技士）制限なし あと施工アンカーの耐力試験に必要となる技能者 ・第1種あと施工アンカー施工士、あと施工アンカー技術管理士又はあと施工アンカー主任技士
	34 耐震施工	1）設備機器の固定は、すべて「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修）により行う。 なお設計用水平地震力は、次に示す設計用水平震度（下表中、固定の機器/防振支持の機器/水槽類）に、機器の重量を乗じたものとする。また設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2 とし、水平地震力と同時に働くものとする。 2）1kN以下の軽量な機器においても耐震を考慮し、振付け又は取付けを行うものとする。 3）横引き配管等においても耐震支持を考慮し、取付けを行うものとする。 ただし、建築の構造体が免震構造、制震構造等である場合は、監督員の指示による。 ・特定の施設

設置場所	重要機器			重要以外		
機器種別	固定の機器	防振支持の機器	水槽類	固定の機器	防振支持の機器	水槽類
上層階、屋上及び塔屋	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5
中間階床	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0
地階及び1階床	1.0	1.0	1.5	0.6	1.0	1.0

⊙一般の施設

設置場所	重要機器			重要以外		
機器種別	固定の機器	防振支持の機器	水槽類	固定の機器	防振支持の機器	水槽類
上層階、屋上及び塔屋	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.0
中間階床	1.0	1.5	1.0	0.6	1.0	0.6
地階及び1階床	0.6	1.0	1.0	0.4	0.6	0.6

主要機器類は次のものを示す。

・配電盤　・自家発電装置　・交流無停電電源装置　・直流電源装置
・交換機　・火災報知受信機　・中央監視装置　・その他（　　）

（注）上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする

章	項目	特記事項
	35 接地極	接地極は下記を標準とする　（接地極埋設標を含む）

種類	接地極
A	銅板（900□×1.5t）、銅棒（14φ×1500）×2本
B	銅板（600□×1.5t）
C	銅板（900□×1.5t）、銅棒（14φ×1500）×2本
D	銅棒（10φ×1500）×2本

章	項目	特記事項
	36 最上階の埋設配管	最上階のコンクリート屋根スラブへの埋設配管は、原則として行わない
	37 分電盤等の負荷名称ラベル	一般回路：白地に黒文字 自家発回路：橙地に黒文字 ただし、標準仕様書に明記されている「非常用照明・誘導灯」等については赤文字とする。
	38 UTPケーブルの試験	接続試験（対向試験）　　・要　　・不要 伝送品質測定（JIS X 5150）　・要　　・不要 ※情報表示設備・監視カメラ設備等の場合は、製造者の社内規定による。
	39 事前確認・測定	・機器の取り付け取り外し、配線の改修及び更新を行う場合は事前確認、測定を行うものとする。 照明器具　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） スイッチ　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） コンセント　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） 分電盤等　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） 制御盤　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） 警報盤　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） インターホン　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） リモートマイク　（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） 配線の改修及び更新（・回路　・配線　・機器と開閉器等の対照　・照明点滅回路　・制御回路） ・照明器具の改修時においては、以下の測定を行い確認すること。 （・照度測定　・電流測定　）
	40 木製工事看板の使用	受注者は、工事現場における自立式の標示板（工事看板等）については、木材を利用した製品の使用に努めること。
	41 設計図書等の取り扱い	※設計図書、工事関係図書（「設計図書等」という。本項目において以下同じ）の電子データ及び印刷物を適正に管理し、設計図書等の内容について、工事の施工に携わらない第三者への流出防止措置を図ること。 また、工事の施工に携わるすべての関係者に対し、流出防止措置について周知徹底を図ること。 なお、盗難や紛失などを含め、設計図書等の内容が工事の施工に携わらない第三者へ流出した場合又は流出した可能性がある場合は、速やかに発注者に届け出ると共に、原因を明確にし、再発防止措置を講じること。 ※標的型攻撃メール等によるサイバー攻撃により本工事に係る情報が漏洩することのないよう、情報保全措置を適切に講ずること。 なお、情報漏洩のおそれが生じた場合は当該情報の機密性の程度に関わらず、その事実を速やかに監督職員へ報告するとともに原因の解明及び適切な対応に努めること。 ※工事中及び工事完成後における設計図書等の電子データ及び印刷物の管理は、特に以下について徹底すること。 工事中の電子データ管理 インターネットでの不正アクセス等にさらされない状況で使用すること。 下請業者等へのデータ提供は必要最低限で行い、上記の状況で使用させること。 工事中の印刷物管理 現場事務所等の適切な場所で管理し、原則外部への持ち出しは行わない。 不必要となったものは、破砕等を行い、判別できない状態で処分すること。 下請け業者等にも同様の指導をすること。 工事完成後の電子データ管理 請負業者で保管するものは、ＣＤ等で保管し、インターネットでの不正アクセス等にさらされない状況で保管すること 下請業者等にも同様の指導をすること。 工事完成後の印刷物管理 請負業者で保管するものは、適切に管理できる場所に保管すること。 上記以外のものは、破砕等を行い、判別できない状態で処分すること。 下請業者等にも同様の指導をすること。
	42 履歴工程	・適用する（　年　月　日）　・適用しない

工事名	早蕨中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）電気設備工事	DATE	DRAWING No.
図面名	特記仕様書（１）	SCALE　Non-Scale	E／01
OKAMOTO ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計	一級建築士 岡本浩一 登録番号23400		

受変電設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付　・基礎　・ネットフェンス
2　電気方式	・高圧　三相３線式　６　６KV　６０Hz ・低圧　・三相３線式　２００V ・単相３線式　１００/２００V ・屋内形　・屋外形
3　機器仕様	・配電盤（・キュービクル式　・開放形　・変圧器盤　・コンデンサ盤） ・スイッチギア（　　） ・単相変圧器（・油入　・モールド）　kVA　×　台 ・三相変圧器（・油入　・モールド）　kVA　×　台 ・交流遮断器（・手動ばね操作方式　・電気操作方式） ・高圧進相コンデンサ（・油入　・乾式）　kVar　×　台 ・直列リアクトル（・油入　・モールド）　kVar　×　台　（・L＝６％　・L＝１３％） ・別図による

電力貯蔵設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　工事種類	・直流電源装置　・UPS装置　・電力平準化用蓄電装置
3　機器仕様	・UPS（・常時インバータ方式　・ラインインタラクティブ方式　・常時商用給電方式） ・電力平準化用蓄電装置（・ピークシフト機能　・ピークカット機能） 電力平準化用蓄電池（※リチウム二次電池　・鉛蓄電池　・ニッケル水素蓄電池） 交直変換装置（出力電気方式　・三相３線式　・単相３線式　・単相２線式） ・別図による。 ※消防法・建築基準法に適合したもの又は蓄電池設備認定委員会の認定証票が貼付されたもの

発電設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　電気方式	・三相３線式　・三相４線式　・単相３線式　・単相２線式 （発電出力　kW　出力電圧　V　出力電流　A）
3　機器仕様	・発電装置（・ディーゼル　・ガスエンジン　・燃料電池　・太陽光　・その他） ・太陽光発電装置　系統連係（・する　・しない　・自立運転）　売電（・有　・無） ・別図による。m ※消防法・建築基準法に適合したもの又は（社）日本内燃力発電設備協会の認定証票（長時間形）が貼付されたもの
4　燃料	・灯油　・軽油　・重油　・燃料ガス　・その他

雷保護設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・外部雷保護システム ・内部雷保護システム ・受雷部システム　・引下導線システム　・接地システム（・A 型接地極　・B 型接地極） ・別図による。m

動力設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付　・電極棒　・フロートスイッチ
2　電気方式	・三相３線式　・単相３線式　・単相２線式　・２００V　・１００V
3　機器への接続	・電動機などの接続は本工事　・別途工事

電灯コンセント設備

1　工事範囲	⊙配管　⊙配線　⊙機器取付
2　電気方式	・幹線　単相３線式　１００/２００V ⊙分岐　単相２線式　・１００V　・２００V
3　機器仕様	⊙照明器具（・公共施設用照明器具　・市販型　⊙別図による） ・非常用照明器具（・電池内蔵形　・電源別置形） ・誘導灯（・信号装置　・誘導装置（・音声　・点滅）） LED照明・ランプについて ※JIS･JEL適合 ※直管型LEDﾗﾝﾌﾟ JEL801:2016適合品 （L型ﾋﾟﾝ口金GX16t-5・ﾗﾝﾌﾟ全光束：LDL40-2:3001m以上、LDL20-1:0001m以上・演色性Ra-80以上等） ※「JIS C 7550」に基づく光生物学的安全性の全評価項目において、全てリスク区分が「免除グループ」であること。 ただし、別途図面で指定する照明器具については、青色光による網膜障害のリスク区分がRG1までの器具を使用可とする。 ・別図による
4　配線器具	※特殊コンセントはプラグ付とする。

通信・情報設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・構内情報通信網装置 ・PoE方式　１ポート当たりの電力供給機能（・15.4W　・30.0W） 電力供給方式（・エンドスパン方式　・ミッドスパン方式） 無線LAN（通信方式　・１：１　・N：N　・１：N） 時刻同期（補正方式　・標準電波　・公衆回線　・ラジオ放送　・GPS　・地上デジタル放送　・NTP） ・監視カメラ（・アナログ伝送方式　・ネットワーク伝送方式） 給電方式（・電源重畳方式　・別電源方式　・その他） カメラレンズ（レンズ区分　・標準　・広角　・望遠　・その他） 録画装置（容量：　※時刻補正方式　・標準電波　・公衆回線　・ラジオ放送　・GPS　・地上デジタル放送　・NTP） ・防犯・入退室管理装置（※時刻補正方式　・標準電波　・公衆回線　・ラジオ放送　・GPS　・地上デジタル放送　・NTP） 認識部（・磁気カードリーダ　・暗証番号　・ICカードリーダ　・バイオメトリックス照合装置） ・別図による

電話設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・交換装置（・局線中継台方式　・分散中継台方式　・ダイヤルイン方式　・ダイレクトインダイヤル方式 ・ダイレクトインライン方式） ・ボタン電話装置（・分散中継台方式　・ダイヤルイン方式　・ダイレクトダイヤルイン方式 ・ダイレクトインライン方式） ・内線　／　回線　（実装／容量） ・局線　／　回線　（実装／容量） ・別図による ※交換機、電話機などの端末機器は、電気通信事業法に適合したもの又は（財）電気通信端末機器審査協会の認定品とする

映像・音響設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・増幅器（・Lo形　・Hi形） ・スピーカー（・天井埋込型　・壁掛型）　・一斉回路は音量調節器を経由した回路とする 天井埋込型で特記なきものは「SC6Hi－3VO-M」、壁掛型で特記なきものは「SWHi－3VO」 ・ワイヤレスマイク（・電波式（・アナログ方式　・デジタル方式）　・赤外線式） ・その他（　　） ・別図による ※消防法に適合したもの又は日本消防検定協会の基準適合ラベルが貼付されたもの

テレビ共同受信設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・アンテナ（・UHF全体域用20素子以上（デジタル放送対応）　・FM（　）素子　・BS　・CS　※BS・110度CSデジタル） 支持方法（・壁面支持形　・自立形） アンテナマスト支持が基礎の場合（・本工事　・別途工事） ・別図による

誘導支援装置

1　工事範囲	⊙配管　⊙配線　⊙機器取付
2　機器仕様	・音声誘導装置　・呼出装置（・トイレ等　・受付） ⊙インターホン（・テレビインターホン　・外部受付用インターホン　・障害者用インターホン） ・別図による

情報表示装置

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・マルチサイン装置　・出退表示装置 ・時刻表示装置（・親時計　・子時計） ※時刻補正方式（・標準電波　・公衆回線　・ラジオ放送　・GPS　・地上デジタル放送　・NTP） ・太陽電池式ポール形屋外時計（※電波による時刻補正機能） ・別図による

自動火災報知設備

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　工事種類	・自動火災報知設備　・自動閉鎖装置　・非常警報装置　・ガス漏れ火災警報設備　・光警報装置
3　機器仕様	・受信機（　回線　・R型　・P型　級　・単独　・複合　・自立形　・壁掛形） ・副受信機（・自立形　・壁掛形）　・表示装置　・中継器　・発信機　・感知器 ・総合盤（・消火栓（別途）に組込　・専用総合盤に組込　・単独） ※消防法に適合した旨の表示があるもの ・自動閉鎖装置（・連動制御器　回線　・単独　・火災受信機と一体） ※建築基準法に適合したもの又は（財）日本建築センターの性能評定マークが貼付されたもの ・非常警報装置（・自動火災報知設備で兼用　・単独　・緊急地震放送） ※消防法に適合した旨の表示があるもの ・ガス漏れ火災警報設備装置（　回線　・単独　・火災受信機と一体） ・検知器（・LPガス　・都市ガス） ※ガス事業法に適合したもの又は各協会の合格証票等の貼付されたもの ・別図による

中央監視制御装置

1　工事範囲	・配管　・配線　・機器取付
2　機器仕様	・監視制御装置（・壁掛形　・自立形　・一体形　・簡易形） 追加機能（　　） 記録装置（・帳票用印字装置：印字方式　・インクジェット式　・レーザー式　・発光ダイオード式） ・警報盤 ・別図による

屋外電気設備

1　工事範囲	⊙配管　・配線　・機器取付
2　配線方法	⊙地中線　（・直埋式　・管路式　）※埋設深さ特記ない場合は、GL－６００mm以上とする。 ・配管引込部の地盤変位への対応（・小規模　・中規模　・大規模） ・架空線
3　避雷器	・屋外形　・耐塩形
4　装柱機材	・一般形　・耐塩形
5　外灯基礎	⊙本工事　・別途工事
6　地中線の余長	※マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む。m
7　表際復旧	・本工事　⊙別途工事
8　埋設標識シート	※要　・用途又は電圧種別の表示　・不要

屋外電気設備

9　埋設表示	・要（・コンクリート製　・鉄製　・樹脂製）　・不要
10　防食テープ	※１/２重ね２回巻きとする。m
11　埋戻し土、盛土	⊙根切り土の中の良質土　⊙保護砂の類　・別図による
12　六価クロム溶出試験	・要　・不要 試料は実際に使用する再生コンクリート砂（D種）を搬入現場で採取する。 １購入先当たり１検体の試験を行う。

1．標準メーカーリスト

下記同等品以上とする。

機材名	製造業者名					
電線・ケーブル同付属品	ＪＩＳ等表示品					
電線管・同付属品	ＪＩＳ等表示品					
配線器具	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	東芝				
照明器具	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	東芝	日立	三菱電機	岩崎電気	ヤマギワ
	大洋化学	遠藤照明	ダイコー			
受変電盤類	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	和歌山電機	電創	内外	日東	河村電器
制御盤・分電盤類	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	和歌山電機	電創	峰制工	日東	内外
拡声装置	JVCｹﾝｳｯﾄﾞ	ＴＯＡ	ｺｰﾍﾞｯｸｽ			
誘導支援装置	アイホン	ケアコム				
テレビ共聴設備	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	HYSｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	ＤＸｱﾝﾃﾅ	ﾏｽﾌﾟﾛ電工	日本ｱﾝﾃﾅ	日本電気
構内交換装置	沖電気	富士通	日本電気	NTT	日立	
監視カメラ装置	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	TOA	JVCｹﾝｳｯﾄﾞ			
変圧器	日立	東芝	三菱	日新	ダイヘン	愛知電機
発電機	日立	ヤンマー	東芝	冨士	三菱	
電力貯蔵設備	古河	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	CSユアサ	日立化成		
防災機器	能美防災	ニッタン	ホーチキ	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	日本ﾄﾞﾗｲｹﾐｶﾙ	
太陽光パネル	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	京セラ	三菱	シャープ		
直管型LEDランプ	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ	東芝	三菱	大洋化学		

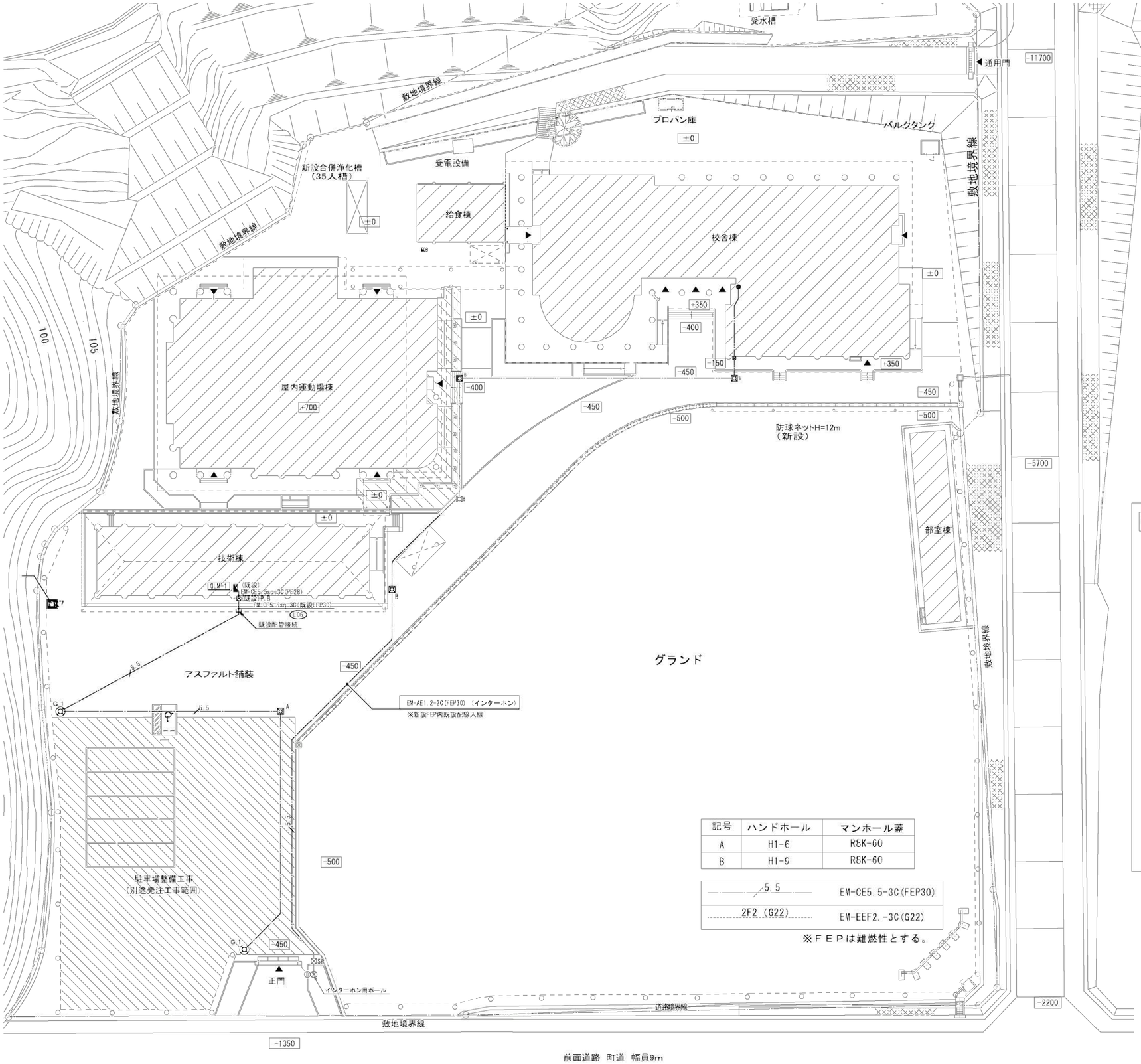
2．機器取付高

機器取付高は、下記を標準とする。ただし、図示されたものを除く。

また、監督員の指示により変更することがある。

	名　称	測　点	取　付　高（mm）
電力共通	取込用計器	地上～窓中心	1,800～2,000
	引込開閉器	床上～中心	1,800～2,000
電灯	分電盤	床上中心	1,500（上端1,900以下）
	スイッチ（一般）	〃	1,300
	〃　（身体障害者用）	〃	1,100
	自動センサ用スイッチ	〃	1,800
	コンセント（一般）	〃	300
	〃　（和室）	〃	150
	〃　（台上用）	台上～中心	150
	〃　（厨房、機械室）	床上～中心	800
	〃　（液化石油ガス検知器）	〃	300
	ブラケット（一般）	〃	2,100～2,300
	〃　（踊場）	床上～上端	2,000～2,500
	〃　（舞上）	舞上端～中心	150
	非常口誘導灯	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
動力	壁掛形制御盤	床上中心	1,500（上端1,900以下）
	開閉器箱	〃	1,300
	操作スイッチ押釦	〃	1,300
電話	室内端子盤（廊下、室内）	床上～下端	300
	中間端子盤（EPS、電気室）	床上～中心	1,500
	保安器箱	天井下～上端	200
	壁付アウトレット　（一般）	床上～中心	300
	〃　（和室）	〃	150
時計拡声	壁掛形親時計	床上～中心	1,500（上端1,900以下）
	子時計	〃	（天井高）×0.9
	壁掛形スピーカー	〃	（天井高）×0.9
	壁付音量調整器（アッテネータ）	〃	1,300
表示	出退表示盤	〃	（天井高）×0.9
	壁付発信器（出退表示用）	〃	1,300
電鈴	ブザー	〃	（天井高）×0.9
	同上用押釦	〃	1,300
呼び出し	壁付インターホン（親機）	〃	1,300
	身体障害者インターホン（子機）	〃	1,100
	呼出ボタン（身障者便所内）	〃	900
	表示等付復帰ボタン（身体障害者用）	〃	1,800
テレビ	テレビ機器収容箱	天井下～上端	200
	直列ユニット（一般）	床上～中心	300
	〃　（和室）	〃	150
火災報知	受信機・副受信機	床上～中心	800～1,500
	火災総合盤	〃	800～1,500
	発信器	〃	800～1,500
	警報ベル	〃	2,300
	表示灯	〃	2,100
	ガス漏れ検知器（LPガス）	床上～上端	300以下
	ガス漏れ検知器（都市ガス）	天井面～中心	（天井面）－200以下

工事名	早蕨中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）電気設備工事	DATE	DRAWING No. E／02
図面名	特記仕様書（２）	SCALE Non-Scale	
	ARCHITECTURAL DESIGN FIRM 株式会社 岡本設計　一級建築士 岡本清一 登録番号23444		

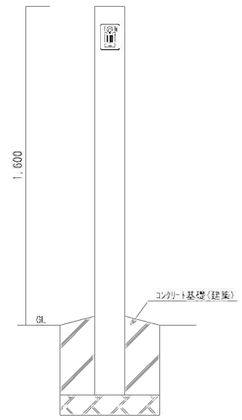


記号	ハンドホール	マンホール蓋
A	H1-6	R&K-60
B	H1-9	R&K-60

5.5	EM-CE5.5-3C(FEP30)
2F2 (G22)	EM-EEF2.-3C(G22)

※ＦＥＰは難燃性とする。

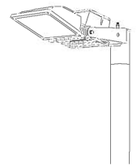
インターホン詳細図 1/20



YKKap ルシアスサインポール
R01型（同等品）

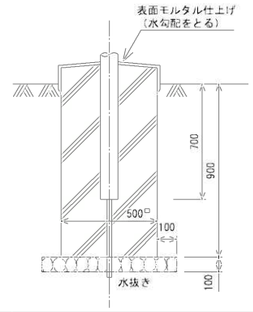
G1 LED街路灯 水銀灯４００形相当 ×2

NNY24939LF9+DYDX4066

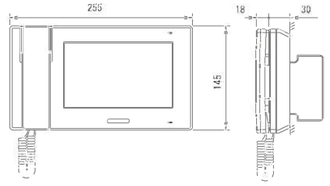


光源・他	昼白色5000K
	地中埋込型、片面ワイド配光タイプ
定格電圧	AC 100 V ～ 200 V
光束・Ra	10,700 lm以上 Ra 85 以上
電力	消費 98.3 W以下
材質	本体：アルミダイカスト（ミディアムグレーメタリック） パネル：ポリカーボネート
寸法	ポール 89.1φ×100（器具取付）：H2,500+700（埋込）
その他	防食つば 安全等級 防雨水構造：IP44、荷重150kN/㎡、落下防止ワイヤー付

基礎参考図

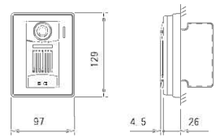


Ⓒ モニター付親機 校舎棟



電源電圧	DC24V（電源アダプターより供給）
モニター	7型TFTカラー液晶
通話方式	拡声自動交互通話 受話器：電話型同時通話
録画機能	自動・手動録画、再生、保存
形　状	埋込・壁取付両用型 （JIS2個用または3個用スイッチボックス） （卓上使用の場合、卓上スタンド(JPP-S)を使用する）
材　質	難燃性樹脂

Ⓓ カメラ付ドアホン子機 正門



電源電圧	モニター付親機または接続端末器・専用カメラ用電源アダプターから供給
形　状	壁取付型(JIS1個用スイッチボックス)
材　質	自己消火性樹脂
カメラ	1/4型カラーCMOS
通話方式	自動交互通話
備　考	防塵・防まつ形(JIS C 0920 IP54 相当)

工事名	早蕨中学校校舎増築・改修工事（屋外附帯工事）電気設備工事	DATE	DRAWING No.
図面名	配置図、電灯設備平面図、照明器具リスト	SCALE 1:400(A1) 1:800(A3)	E / 03

ARCHITECTURAL DESIGN FIRM
株式会社 岡本設計
一級建築士 日本法一
登録番号第34400